速報　世界選手権幕開く

日本は9位決定へ

日本は悲願のベストエイト入りをまったく惜しいところでのがした――。

第7回世界男子7人制ハンドボール選手権大会は、2月26日から3月8日までの日程でフランスに世界の強豪16ヶ国が参加、その幕をあけた。4ヶ国づつ4組に分けられた予選リーグは2月26、28、3月1日の3日間、フランスの主要8都市で激戦を展開した。

アジア大陸代表として4回目の出場をした日本（田村正衛団長、村田弘監督ら16人）は予選リーグB組でチェコ、ユーゴ、アメリカと対戦。その結果1勝1分1敗の成績に終わり、惜しくもベストエイト入り（決勝トーナメント出場）を果すことができず各組3位による9位決定リーグ戦（3月3日から6日まで、パリ）へのぞむことになった。

後半の粘り及ばず

日本の第1戦・チェコとの試合は2月26日午後8時30分からベイヨンヌで行われ、日本は前回優勝国チェコに対してスタートから激しい斗志でぶつかったが、前半10分をすぎたあとは相手のペース。後半の粘りも空しく敗れた。

チェコ 19（8－2、11－7）9 日本

（日本の得点）木野2、野田2、近藤2、近森1、東1、早川1

日本、あと1点に泣く

第2戦ユーゴとの試合は2月28日午後9時からアジエンで行われた。必勝の意気に燃える日本は、前半ユーゴのリードを許したが、後半になってすばらしい反撃を示し大会史上でもまれにみる激戦となった。ユーゴも懸命に防戦、ともに"最後の1点"を奪うことができぬまま引き分けに終わった。

優勝候補ユーゴと引き分けた日本の健斗はセンセーショナルな話題となってフランスはもとよりヨーロッパのファンの間に伝った。

日本 17（8－10、9－7）17 ユーゴ

（日本の得点）木野5、近森5、野田3、飯田3、江名1

アメリカから1勝あげる

第3戦アメリカとの試合は3月1日午後3時30分からツールーズ体育館で行われた。

アメリカは、カナダの出場辞退からIHFがスペインの参加を認めたことに抗議、それが認められての登場だったが、日本は立ちあがりから試合のペースを握って優位に立ち危気なく勝った。しかし決勝トーナメント進出へ結びつく点差はマイナス4にとどまり、ユーゴのプラス26（第2日現在）を追いこむのは難しくなった。

日本 21（10－7、11－8）15 アメリカ

（日本の得点）＝記録未着

▽B組このほかの試合

ユーゴ 34－8 アメリカ

チェコ 23－9 アメリカ

チェコ 16－15 ユーゴ

この結果B組は①チェコ②ユーゴ・日本となったが決勝トーナメントへは得失点差にまさる（ユーゴプラス25、日本マイナス4）ユーゴが進んだ。

ルーマニアなど決勝へ

予選リーグの結果、決勝トーナメントへ進出する8ヶ国は次のとおり決まった。

スウェーデン、東独、チェコ、ユーゴ、ルーマニア、西独、デンマーク、ハンガリー

9位決定戦の日程　▽3月3日　日本－ポーランド、フランス－ソビエト▽4日　日本－フランス、ポーランド－ソビエト▽6日　日本－ソビエト、フランス－ポーランド

予選リーグB組出場国オールメンバー（数字は身長）

【日本】

K	下里敏彦	184
	本田　洋	178
F	竹野奉昭	175
	江名英彦	177
	近藤信行	170
	近森克彦	182
	飯田誠行	187
	木野　実	180
	東　一敏	180
	野田　清	169
	早川清孝	180
	藤中憲二	180
	斉藤光男	183
	中井武三	180

【チェコ】

K	アーノスト	180
	スカルパン	177
F	クリムシク	174
	マレス	178
	ルコシク	182
	カヴァン	175
	ハブリク	190
	ホルバス	180
	ハーマン	186
	ベネス	180
	クラナト	197
	ズーダ	186
	ブルーナ	190
	コネクニイ	177
	サトラパ	187
	カツサク	182

【ユーゴ】

K	コステイク	180
	アルスラナジク	189
	メルバル	178
F	プリパニク	177
	ザグメスター	191
	ホポビク	181
	ホルバルト	190
	ラブルニク	192
	ポクラヤク	183
	カラリク	184
	ミルコビク	185
	ブガルスキー	177
	ラザレビク	187
	ヤクセコビク	196
	クルスティク	182
	フアイフリク	180

【アメリカ】

K	エデス	183
	ゲルレイ	188
	B・セウテ	175
F	ベルクホルツ	180
	ドレーク	188
	ダンカン	183
	ユラク	183
	ラパルベラ	185
	マッカルディ	183
	ネイラー	178
	ポンシック	175
	K・セウテン	183
	サリーン	193
	トリンクス	190
	ウイッカート	185
	ウイッティ	183

「ハンドボール」3月号（第73号）目次

表紙写真第7回世界選手権選手団（於羽田空港2月14日）

全日本ベストセブン決まる

優秀チームに全立教と大洋デパート

日本協会は2月20日、昭和44年度全日本最優秀チームと全日本ベストセブンを別表のように発表した。

優秀チームはこれまで4～5チームが推せんされていたものだが今年度は「最優秀」として男子は全日本総合優勝の全立教（東京）、女子は今年度の四大全国タイトルを独占した大洋デパート（熊本）の各1チームだけが推された。

ベストセブンは、男子は当然のことながら第7回世界選手権代表のなかから選考、最高にして最強の顔ぶれとなつた。木野、近藤の3年連続が光る。

近森は42年度につづく2度目、本田、野田、東が2年連続の受賞。

女子は、GKが久しくナンバーワンの座にあった渡辺美（田村紡）から小原にかわったのが目立つ。FPは四冠王大洋デパートの主力枝尾、渡辺が2年連続のほか垂水が小林とともに2年ぶりのカムバック。木幡の初受賞も話題だ。

三菱鉛筆のエースだった蓮見は2年連続。

なお別表○内数字はベストセブン以前の「年度優秀選手」制（昭38～昭40、昭41は休止）時代の受賞も含んだ数である。

○…優秀チーム…○

男子・全　立　教（東京）
女子・大洋デパート（熊本）

○…ベストセブン…○

【男子】

GK	本田　洋	日体大	②
FP	近森克彦	大崎電気	③
	木野　実	全立教	⑤
	野田　清	全立教	②
	東　一敏	大崎電気	②
	藤中憲二	日体大	①
	近藤信行	大崎電気	④

〔女子〕

GK	小原名苗	大洋デパート	①
FP	垂水秀代	大洋デパート	②
	渡辺須和子	大洋デパート	②
	蓮見二三恵	三菱鉛筆	②
	小林五子	田村紡	②
	木幡和子	大崎電気	①
	枝尾清女	大洋デパート	②

強化委、ミユンヘン対策へ

45年度活動方針まとまる

頂点強化を推進する選手強化対策委では、二年後に迫ったミュンヘン・オリンピック対策の第一段階として昭和45年度の活動方針をまとめ、全国評議員・理事会席上で村田委員長が発表した。

世界選手権の結果によってオリンピック対策は変動も予想されるが、斯界はじめての大事業だけにその成果は大いに期待され、全国関係者の協力が望まれよう。

昭和45年度の活動方針は後掲のようなものだが、注目されるのは優秀トレーナーの研究会（5月、12月）と高校優秀選手の合宿（8月）を計画していることだ。

トレーナーの研究会は有力チーム指導者の意見を聞く一方、強化対策委の指導方針を説明するため開くもので、指導体系一貫化という宿願を達成する最初の試みとして大きな意味をもってこよう。

高校優秀選手合宿は、全国高体連との最終的協議が残されており現時点では具体案が示されていないが、長期的なトップレベル強化には高校界、ジュニア界の指導は欠かせないものである。

なお、選手強化対策委規程の新設も予定されており、早ければ4月から施行したい意向だ。

また、選手強化対策委員会機構については、村田委員長（全日本男子監督）が帰国後、構想が明らかにされる予定。

○…昭和45年度、選手強化対策委事業…○

▽5月
・全日本男子強化合宿
・優秀トレーナー研究会

▽8月
・IHFコーチシンポジューム（2日～7日・ストックフォルム）
・全日本男子強化合宿
・全日本女子強化合宿
・ミュンヘン対策コーチ会議
・高校優秀選手（男女）合宿

▽9月
・国際試合（東京ほか）

▽12月
・全日本男子強化合宿
・優秀トレーナー研究会

▽46年2月
・昭和46年度ナショナル候補選手決定
・ミュンヘン対策コーチ会議

▽同3月
・全日本男子強化合宿
・全日本女子強化合宿

9月4日から国際試合予定

日本協会では、今秋の国際試合（ヨーロッパチーム招待）について協議を重ねて来たが、国内事業の日程とにらみあわせ9月4日来日、24日帰国の21日間（8試合）という基本案を決定した。

招待チームは、予定された西ドイツ、ソビエトがナショナルチームの編成が困難と伝えられたため世界選手権に出場する田村会長、村田監督に来日交渉を一任することになった。

荒川理事長、村田委員長両氏は「原則として世界選手権のベストエイトに残った国」といっており強力チームの来日が期待される。

なお、各国ともナショナルチームの編成が難しい場合は、有名単独クラブになることもあるが、その場合は今シーズンのヨーロッパカップベストエイトのうちが望ましいとしている。

韓国学生の来日は8月？

韓国協会はこのほど日本協会あて、今シーズンの学生交流について8月上旬の10日間に韓国学生ナンバーワンチーム（単独校）を訪日させたいと連絡して来た。全日本学連では7月上旬を予定していたため急きょ協議する。

新たに「普及・登録部」

田村会長はさきの全国理事会・評議員会席上、新年度から協会機構を一部改める意向を明らかにした。これまで副会長（3名）が各専門部を統括していたのを一切廃め、また技術部と選手強化対策委員会の事業重複をさけるため技術部を「普及・登録部」に改編、同部が底辺活動を、強化委が頂点活動をそれぞれ担当させる。

年少層対象の事業を研究

45年度は地域単位に促進

日本協会では学徒対外試合規制（次官通達）の一部緩和による年少層を対象とした事業の開催について検討を進めることになっているが、新年度はあくまでこの層への競技侵透を重点にして、全国的な催しは行わない意向だ。

これまで、この問題について日本協会は本格的な協議を行っていず、1月24日の全国理事会で宮崎常務理事（西副会長の代行として体協競技力向上委員会出席）から今回の緩和のアウトラインを聞いたあと、荒川理事長が『昭和45年度は、地域（ブロック）を単位とした中学校大会を促進することに留め、全国的な大会は今後の研究課題にする』と見解を述べたにとどまっている。

2月14日の常務理事会でもいちおう議題になったものの、大きな進展はなく、むしろ中学ハンドボールの実態を正確につかみ、いつその普及を企ることが先決という意見が支配的であった。

母体ともいうべき〝中学球界〟がかたまらぬうちに全国的事業を行うことはたしかに危険な面もあり、慎重な方向づけは必要であろう。

しかし、年少層への普及――さらには全国事業の実施による刺激から競技力向上と底辺拡大の両面が飛躍することは明らかであり荒川理事長を中心に、場合によっては特別委員会を編成して、早ければ46年度にはなんらかの〝形〟が整えられるかも知れない。

現在、ブロックの大会を行っているのは近畿地区（近畿中学校総合体育大会の一つとして）だけで新年度から東海地区、北陸地区がると伝えられるが、全地域が出揃ると計画していうのは、各地域の事情、考えかたの違いもありかなり時間がかかるとみなければならない。

したがって各地域の育成を待って全国大会へとステップを踏むことは遠い将来になってしまうわけだが、日本協会としては、そこまで段階を経ることは考えていないようだ。

常務理事会では雑談的に「全国少年（少女）ハンドボール大会」を計画したらといった意見も出されていたが、全国事業が近いうちに具体化されるとすれば、そうした色彩の濃い内容のものとなろう。

これとは別に、高校界でも現行の全日本高校選手権（インターハイ）、国体高校の部のほか、もう一大会開催できるようになったが、日本協会では全国高体連ハンドボール部側の意見を聞いて善処することにしている。

なお、日本協会総務企画部では3月中に全都道府県協会から各県下の中学ハンドボール界の実情、ハンドボール少年団活動の現状などの報告をうける予定。

大詰めの全国大会再検討

かねてから日本ハンドボール界の最大課題となっている〝全日本選手権再検討問題〟は、若崎常務理事を委員長とする小委員会を組んで研究を重ねているが、委員の意見調整などに手間どり結論を得るまでに至っていない。

問題の焦点となっているのは本誌でも再三伝えられているように全日本総合選手権と全日本選抜選手権の取り扱いにある。

現在、二大会をめぐって出されている意見を総合すると、

①、全日本総合を文字通り国内最高の選手権とするため開催期日を8月から冬季（11月～1月）に移す。

②、全日本選抜は発展的解消するか、年度上半期（4月～7月）に移す。

③、全日本総合の開催地を国体開催地の前年に持ちまわるという慣習をなくし、例えば東京、大阪、名古屋あるいはその周辺都市に限定する。

④全日本総合の男子参加数を
イ、32とする（現行のまま）
ロ、16とする
ハ、8とする

⑤、全日本選抜の出場チームを各加盟団体の選抜チームとし、オールスターゲーム的内容とするといったように集約されそうだ。

このうち①と③は特に強い関連があり（冬季開催となれば地方での体育館確保が難しい）国体開催地が運営上のリハーサルを必要とする場合は教職員、学生、実業団の全日本選手権を招致したらどうかという意見もある。

全日本総合の試合方法については、かつての自由参加時代から地域予選を含む推せん制時代を経てそろそろ、最精鋭による大会へ煮つめなおしてもよいという考えかたがあり、それも世界選手権方式（16チームを4組の予選リーグのあと、各組2者による決勝トーナメント）あるいは予選リーグ・決勝リーグ制、さらには男女別開催という提案もあるようだ。

いずれにせよ、昭和46年度から両大会の手直しは必要であり、それにともなって国内球界のシーズン制というものがかなり変動・確立されることになりそうだ。

なお、国体の種別地域割り当て数の再検討（修正）も小委員会ですすめられる予定。

児童生徒の参加する学校教育活動外の運動競技会の基準要点

◎全国的大会及び地域的大会の主催者は原則として「競技団体」と「学校体育団体」の共催とする。

◎12才以下の児童を主な対象として行う競技会は都道府県まで、12才以上15才以下の生徒を主な対象として行う競技会は原則として地域（ブロック）大会までにとどめて全国的大会は行わない。しかし体力に秀れ、競技水準の高いものを選抜して行う地域的大会、全国的大会については青少年運動競技中央連絡協議会（注・体協、高体連、中体連など全国組織9団体を中心に編成）にはかり、適性と認められるものに限り実施できる。

◎児童生徒を主な対象とする地域的大会および全国的大会の開催回数はそれぞれ年間次の程度にとどめる。

▽15才以下の児童・生徒
地域的大会　1回
全国的大会　1回

▽15才以上の生徒
地域的大会　2回
全国的大会　3回

（文責・編集部）

登録料の値上げ正式決定（一般 二千円 高校 千円）

全国評議員会・理事会開く

全国評議員会

2月1日午前11時から体協三〇一会議室に田村会長、西、保坂、渡辺副会長、8評議員（秋田・由利、福島・熊田、新潟・渡辺、大阪・野原、滋賀・尾本、広島・丸口、福岡・小袋、高体連・徳永、委任状25通）と、日本協会荒川理事長、山田監事、安藤審判担当常務理事ら執行部主要役員が出席して開かれた。

全国理事会の承認を経由したチーム登録料については、ほとんど異議なく議決されたが、「今後二〜三年間は値上げできないと思うが、膨脹する支出にどのような収入源をあてるか」（野原評議員）、「一般を学生、実業団、クラブに分ける方法は考えられぬか」（熊田、渡辺両評議員）「地方協会への還元を考えりよすべきだ」（丸口評議員）といった質問が行われた

これに対し田村会長、荒川理事長は、「収入源として競技収入（主に国際試合の開催）をあてる。一般の種別をさらに細分化することは当分のあいだ考えない。下部への還元は研究するが、とりあえず今年度は高体連に運営費の補助を考える」などの意向を明らかにした。

都道府県協会の加盟金は一万円五千円の二本建てとすることに決まったが、未納県（協会）に対するペナルティを来年度から厳しく課すべきだという声が強かった。ちなみに昭和44年度の加盟金未納は11協会（2月1日現在）である。

国体割り当て数を検討

注目されたのは「国体のブロック割り当て数の改正提案」（小袋評議員）。特に一般男女が古いデータのまま施行されている点に意見が出され、全日本選手権検討委員会で4月までに検討を加えることになった。

このほか45年度事業、44年度全日本優秀チーム、同ベストセブン（男女）＝何れも別掲＝が承認された。

国際試合については、オリンピックを控えて、出来るかぎりヨーロッパチームを招へいするという方向が打ち出され、今秋の交流については執行部私案「9月4日〜24日に8試合」の線にそって、訪欧する田村会長、村田選手強化対策委員長（全日本監督）が外国協会関係者と折しよう、3月中旬までに計画を固めることに決めた。

なお、46年度も9月に国際試合（招待）を行うことを申しあわせた

全日本学連による韓国学生招待（別掲）、高体連の第3回日韓高校交歓スポーツ競技会派遣も承認された。

また、8月6日からストックフォルムで開かれるIHFコーチシンポジュームと、秋にプラハで行われる第13回IHF総会にそれぞれ代表を送ることも決まった。

規約を一部改正

日本協会全国評議員会は2月1日の会議で規約第3章第16条3項『会長、副会長は理事となる』を扶消することを議決した。

したがって、副会長は今後評議員会、理事会、常務理事会にその資格をもって出席、意見を述べることになった。

全国理事会

1月24日午後1時から体協四〇一会議室に田村会長、西副会長、荒川理事長、山田監事ら25名（欠席9名）が出席して開かれた。

最大の県案とみられた日本協会財政の再建については本誌既報のとおり、森岡財務担当常務理事、財源検討委員会委員長嶋田常務理事の説明を聞いたのち、45年度以降毎年度に予想される収支差額マイナス百三十万円を補うには、チーム登録料、用具検定料の値上げはやむを得ないという結論に達し財源検討委員会案として示された

▽一般・学生　二千円（現行千円）
▽高校　千円（六百円）

という新しいチーム登録料を承認した。

用具検定料については、一個当りの検定料（現行50円）値上げを望む協会側と、業者単位の認定料納入を希望する業者側に意見の食

昭和45年度事業日程

▽昭和45年度全日本審判員研修会（5月・東京）
▽第2回全国自衛隊選抜大会（6月20・21・22日・東京駒沢）
▽第21回全日本高校選手権（8月3日〜8日・彦根市）
▽韓国学生チーム招待（8月上旬(？)・東京ほか）
▽第3回日韓高校交歓スポーツ競技会（8月中旬・ソウル＝予定）
▽第13回全日本教職員選手権（8月14日〜16日・四日市市）
▽全国中学校指導者講習会（8月中旬・四日市市＝予定）
▽第22回全日本総合選手権（8月18日〜22日・和歌山県打田町）
▽ヨーロッパチーム招待（9月4日〜24日各地＝予定）
▽第20回全日本学生選抜東西対抗（9月6日・名古屋市）
▽第25回国民体育大会ハンドボール競技（10月10日〜15日・盛岡市）
▽第13回（女子第6回）全日本学生選手権（11月・大阪）
▽第17回全日本選抜選手権（12月16日〜20日・東京）
▽第11回全日本実業団選手権（未定）

×

▽公認審判員研修会（8月・彦根市・8月四日市市・10月盛岡市、46年2月未定）

いちがいがあり荒川理事長がなお折しようすることになった。

また、都道府県協会加盟金、個人登録料（一般男女）についても議論されたが、いずれも現行額にすえおくことになり、都道府県協会加盟金は、登録チーム数が10以下の場合、現行の半額五千円に値上げし、そのかわり期限までに納入しない協会に対しては、徴罰を課することになった。

昨年10月15日現在、登録チーム数が10以下の都道府県は鳥取、島根、宮崎、佐賀の4協会である。

"選手権の検討"を再確認

かねてから検討が望まれている各全日本選手権の開催期日については小委員会の意見がまとまっていないため具体案が協議されるまでにいたらなかった。

しかし、全日本総合と全日本選抜の性格、開催期日、内容などの改訂を望む声は特に強く3月までに小委員会が作業を進めることになり昭和46年度から実施できるものは移行することも申し合わされた。（関連記事・3項参照）

このほか、今年8月和歌山県打田町で行われる第22回全日本総合選手権の男子推せんチームは全立教（東京・前回優勝）、大崎電気（埼玉・前回2位）の両チームとすることが決定した。全国選抜自衛隊大会についてはハンドボールが自衛隊の正式訓練種目へ加わるまで日本協会主催の公式事業として開催することに決まった。

A・B級審判員にテスト考慮

審判技術の向上を企る審判部の構想も注目された。

安藤審判担当常務理事によれば終身資格的な現行のライセンス制度を改めるためA・B級審判員には実技とペーパーテストを実施するほか、全国大会の担当審判員をこれまでの各地区選出者のほか本部指名の審判員を加えるなどというもので、将来は高いレベルを持った特定の審判員によって「全日本選手権審判団」（仮称）を編成する意向も初めて明きらかにされた。

なお、A・B級取得者は2年毎に資格更新（更新料三百円）を行わねばならなくなった。

中学校指導者講習会実施へ

昭和47年度からの中学校体育指導要領復活に備えて技術部と全日本教職員連盟からそれぞれ「中学校指導者講習会」の企画が出されたが、日本協会主催による一本化が望ましいとして、文部省の協力を得たうえで改めて具体案をねることになった。準備が間にあえば8月四日市市で開かれる第12回全日本教職員選手権の時に第1回講習会をもつ。

このほか、日本協会旅費規程の一部改正が総務企画部から提案され、これまであいまいだった大会々長、大会委員長、審判員の旅費は国鉄運賃にグリーンA料金と急行券を支給することに統一（ただし国体、高校総体は除く）、他の役員は当分のあいだ国鉄運賃に急行料という現行規定にすえおくこととした。旅費規程に限らず日本協会の諸規程が有名無実なため、早急に「日本ハンドボール協会規程集」を刊行、諸規程を忠実に施行も確認された。

緩和された国際交流規制

今秋の国際試合については別掲詳報のとおりだが、これまで日本協会（本部）だけに限られていた国際試合の企画・実施を、実行能力さえあれば各都道府県協会、各加盟団体はもとより一チーム単位でも認めるべきだという意見が出され「企画段階で日本協会（理事会）の承認を得ること」を条件に制限緩和に踏み切った。

この結果、今後は単独チームの国外遠征や、地方協会単位の国際試合の実施が容易になるわけだ。

海外駐在理事に河内氏推せん

日本協会では、海外駐在理事として、前日本協会常務理事でミラノに在住中の河内鋭雄氏（東大OB）を推せんすることに決めた。

関東協会の事業日程

関東協会は45年度の大会日程を次のように決めた。44年度流会した関東実業団については未定。▽第22回全日本総合関東予選会（6月28日・土浦市）▽第16回関東高校選手権（7月22～25日・秩父市）▽第17回関東選手権＝国体関東予選（8月29、30日、栃木市）

45年度予算原案決まる

2月14日体協で開かれた常務理事会は、全国評議員会・理事会の承認にもとずいて田村会長が昭和45年度予算原案を示し質疑ののち別表のように内定した。

この額にそって各専門部がさらに細部的な予算を組みたて4月中旬東京で行われる予定の全国評議員、理事合同会議に提出することになった。

事業費の内訳けは別表のとおりだが、頂点強化に関連する経費百九十万円が計上されているほか中学校体育指導要領への復活（47年度）を前に第1回の中学校指導者講習会補助費三十万円が新しい事業だ。また高体連へ助成金が交付されることになったのは金額はともかく、田村ー荒川体制が公約した下部組織などへの環元の最初の実現といってもよいだろう。

全国大会共催費は例年どおりスポーツ振興費の交付額がそのまま割りあてられる。

なお、機関誌会計（別表※印）は実質的には特別会計となり収支差益が一般会計へ繰り入れられることになる。

昭和45年度 一般会計予算案

【収入の部】

加盟金	440
登録金	2600
検定料	1650
審査料	170
購読料	※2000
広告料	※1000
補助金	
競技力向上費	2200
スポーツ振興費	600
IHF会議補助	200
寄附金	500
雑収入	40
計	11400

【支出の部】

本部費	3700
会議費	1050
事業費	3700
機関誌費	※2550
予備費	400
計	11400

事業費内訳（案）

審判経費	500
中学校指導者講習会	300
強化コーチ研修会	100
全日本選手合宿	1200
強化巡回指導	100
IHFコーチ研修会	250
全国大会共催費	600
高体連助成費	100
普及振興費	100
ジュニア全日本強化費	250
予備費	200
計	3700

（単位千円）

大洋デパート4冠王の偉業なる

～ 男子トーナメントは宗形製作所 ～

大崎電気(男子)はついに10連勝

第10回全日本実業団選手権

名古屋市

10回目を迎えた全日本実業団選手権は2月7日から11日までの5日間、名古屋の愛知県体育館（8日のみ名古屋市体育館併用）に男子40、女子6チームが参加して開かれた。

注目の女子は、国内最強6チームが総当りで対戦、はげしい斗志のぶつかりあいとなったが、史上3度目の〝四冠王〟を狙う大洋デパート（熊本）が地力を示して連勝、ついに今年度の四大全国タイトル（全日本総合、国体、全日本選抜、全日本実業団）の独占に成功した。しかし、最終戦で田村紡（三重）の斗志の前に1敗を喫し、全勝で偉業を飾ることはできなかった。

男子は、前回のベストエイトによる高松宮杯リーグとその他の32チームによる日本協会杯トーナメントが行われた。

ベストエイトによる争覇は、常勝・大崎電気（埼玉）が主力6選手を世界選手権代表へ送ってチーム力を低下させながら、秀れた攻守で快勝、10連勝をとげるとともに第1回大会以来、44試合連勝をマークした。

一方のトーナメントは、古豪宗形製作所（大阪）が長崎国体3位の本田技研（三重）を制し優勝した。

三景、常盤、住化らの挑戦及ばず

男子リーグ（高松宮杯）

▽予選リーグA組

大崎電気（埼玉）	20（11－6、9－6）12	日進商会（神奈川）
常盤工業（岐阜）	不戦勝	千代田印刷機製造（千葉）
常盤工業	21（11－10、10－5）15	日進商会
大崎電気	不戦勝	千代田印刷機製造
日進商会	不戦勝	千代田印刷機製造
大崎電気	26（14－9、12－6）15	常盤工業

得	【大崎】		【常盤】	得
0	福本	GK	渡辺	0
0	井上	FP（審・赤松 浅野）	中島	1
8	西村		高橋	5
4	籏野		安井	0
7	平岡		山田	5
1	谷口		鳥村	0
1	太田		丹羽	4
2	佐藤		大野	0
1	沢田			
2	林			

26（3）7MT（3）15

【順位】①大崎電気3戦全勝②常盤工業2勝1敗＝以上決勝リーグ進出③日進商会1勝2敗④千代田印刷機製造、不戦による3敗

○……健斗をみせる日進商会を降した大崎×常盤の〝決勝〟は優勝争いにもひびく注目の一戦だった。

主力を世界選手権代表に送っている大崎は立ち上り10分まで4－3と常盤の善戦を許したが、そのあと西村、平岡、谷口らが矢次早やにシュートを決め20分には10－5と差を開いた。

常盤も山田、高橋を中心に懸命な反撃を試みるのだが、大崎の厚いディフェンスを突き破ることができず後半9分10－15と迫ったのが精いっぱい。そのあと連続5点を失って大勢が決まった。

大崎のスピーディな攻守はやはり抜群でまったく危気のない勝ちかたといえた。

千代田印刷機製造はメンバーの負傷などからチーム編成ができなくなり棄権を申し出た。

住化、富士鉄と引き分け

▽同B組

住友化学菊本（愛媛）	15（8－9、7－6）15 引き分け	富士製鉄名古屋（愛知）
三景（東京）	26（13－11、13－5）16	日本鋼管京浜（神奈川）
住友化学菊本	24（15－6、9－1）7	日本鋼管京浜
三景	26（13－4、14－6）10	富士製鉄名古屋
富士製鉄名古屋	26（14－10、12－8）18	日本鋼管京浜
三景	23（17－10、6－5）15	住友化学菊本

得	【三景】		【住化】	得
0	西牧	GK	季原	0
			成行	0
1	竹村	FP（審・西川 河野）	伊藤	1
6	尾形		松井	0
5	榊		長嶺	1
5	高梨		加藤	6
2	内藤		落海	0
4	山原		金剛	3
0	上平		神代	0
			北山	1
			白石	3

23（0）7MT（1）15

【順位】①三景3戦全勝②住友化学菊本1勝1敗1分（得失点差9）＝以上決勝リーグ進出③富士製鉄名古屋1勝1敗1分（得失点差マイナス8）④日本鋼管京浜3敗

○……住化×富士鉄は同じタイプの対戦で一進一退。こまかいパスワークからダブルポストで得点しあい、わずかに中盤リードの住化が1点差で後半に入った。

追う富士鉄は後半調子をあげ6分9－8と逆にリード。杉浦、黒岩の好プレーで20分には14－12と2点差をつけた。

しかし住化はこのあとシュート力のある加藤に球を集め21分から

年次優勝チーム

【男子】

①～⑩　大崎電気（10連勝）

【女子】

①　愛知紡
②　愛知紡
③　愛知紡
④　レナウン東京
⑤　大崎電気
⑥　大洋デパート
⑦　田村紡
⑧　田村紡
⑨　大洋デパート
⑩　大洋デパート

3分間に加藤が3ポイントして再び優勢となった。

残り5分、ともに動きが固くなりチャンスをつかめなかったが富士鉄は28分細川が同点のゲットを決めて引き分けに持ちこんだ。

○……三景×住化は前半、住化の遅攻ペースに三景がのって接戦となったが、後半は三景が尾形の好配球から高梨、山原が鮮やかなプレーで得点を重ね特に後半10分から10分間に連続10ゴールを奪った多彩な攻撃はみごと。GK西牧の成長したプレーもよかった。住化は自分の得意な形にはまるとよいが、いったん動きがとまると次の決め手に欠ける。

常盤、三景を追いこめず

▽決勝リーグ

三景 24（11―9／13―11）20 常盤工業

	【常盤】	得	【三景】	得
GK	渡辺	0	西牧	0
FP	中島	3	竹村	1
	高橋	6	尾形	3
	安井	0	榊	5
	山田	6	高梨	3
	鳥村	1	内藤	6
	丹羽	4	山原	6
	大野	0		

（審・門前、丸岡）

24（1）7MT（2）20

○……常盤は相手のミスパスからの速攻やラッキーな得点を重ね11分6―3としてペースに乗ったかにみえたのだが、そのあと高橋をマークされてから動きが鈍り三景に反撃機を与えてしまった。

リードされながらも三景は抜群の球捌きを見せた尾形の巧技から着々と得点を返し19分6―6と追いついたあと一気に5ポイントを加え逆転した。後半、常盤も速攻から20分には19―20と追いあげたのだがそこで途切れ、山原の果敢なプレーを活かした三景のポストプレーにゴールを割られ敗れた。（丸口）

大崎電気 14（6―3／8―6）9 住友化学菊本

	【住化】	得	【大崎】	得
GK	季原	0	福本	0
GK			尾崎	0
FP	神代	0	井上	2
	長嶺	0	西村	5
	加藤	3	籏野	2
	落海	2	平岡	3
	白石	3	谷口	1
	金剛	1	太田	0
	伊藤	0	佐藤	0
			林	1

（審・岡村、槇）

14（2）7MT（0）9

○……立ちあがりの動きはともに鈍く15分まで大崎3―1という貧打戦。住友はゆっくりとしたペースから21分3―4とつめ期待をもたせたのだが25分、26分に速攻を許し傷口をまたあけてしまった。

後半、大崎は2分、5分の7MTをソツなく決め8―4。住化にこの2本の7MTはこたえようだ。あとは互いに散発的に得点しあっただけで盛りあがりのないままタイムアップ。

住化は、スピードでの勝負をさけ、遅い運びに大崎を誘ったものの肝心の攻撃が大崎の固い守りを突き切れなかった。（杉山）

常盤工業 26（13―7／13―5）12 住友化学菊本

	【住化】	得	【常盤】	得
GK	季原	0	渡辺	0
GK	成行	0	日比	0
FP	神代	0	中島	3
	伊藤	0	高橋	7
	長嶺	1	安井	1
	加藤	6	山田	7
	白石	1	鳥村	0
	金剛	1	丹羽	7
	北山	0	大野	1
	落海	3		
	平野	0		

（審・西川、河野）

26（0）7MT（0）12

大崎、層の厚さを示す

大崎電気 19（13―7／6―7）14 三景

	【三景】	得	【大崎】	得
GK	西牧	0	福本	0
FP	竹村	0	井上	4
	尾形	4	西村	4
	榊	1	籏野	0
	高梨	4	平岡	6
	内藤	3	谷口	4
	山原	2	太田	1

（審・赤松、浅野）

19（2）7MT（1）14

○……今大会好調の三景に〝打倒・大崎〟の期待がかけられたがさすがに大崎は選手層が厚い。

主力6人を世界選手権を送っていながら、まったく危気のない試合ぶりをみせた。

序盤こそ三景の追撃を許し、11分まで5―4とせりあったが、そのあと長身・平岡の豪快なジャンプショット、ベテラン西村、井上の巧技で徐々に点差を開いた。

三景も尾形を中心に攻めこむが大崎の守りは厚くシュートチャンスをつかんでもGK福本の堅守を突き破れなかった。

○……前半で13―7。味気ない〝決勝〟に終るところだったが、ハーフタイム後大崎の攻撃が雑に流れたスキを三景はよくついて15分には11―13。大崎は15分10秒の7MT（西村）が後半初ゴールという低調。しかし、体勢を建てなおすと再びスピードをみせつけて三景をねじふせた。三景の緊張に比べ、大崎は終始余ゆうが感じられた。（杉山）

大崎電気 26―15 常盤工業

三　景 23―15 住化菊本

（以上2試合は予選リーグの記録を適用）

【決勝リーグ順位】①大崎電気3戦全勝②三景2勝1敗③常盤工業1勝2敗④住友化学菊本3敗

5位に日進商会

▽5位決定リーグ

日進商会 25（13―3／12―9）12 日本鋼管京浜

	【日鋼】	得	【日進】	得
GK	折本	0	佐藤	0
GK	湯原	0		
FP	林	4	米沢	6
	小林	0	正本	5
	赤裏	0	大山	5
	穴沢	2	出口	2
	桜井	4	永島	3
	山田	1	北橋	2
	小西	1	夏目	2
	堀内	0	古屋	0

（審・　　）

25（0）7MT（3）12

日進商会 17（8―10／9―5）15 富士製鉄名古屋

	【富士】	得	【日進】	得
GK	合田	0	佐藤	0
FP	杉野	2	正本	2
	細川	2	大山	8
	大矢知	1	出口	2
	日光	4	永島	2
	杉浦	0	夏目	1
	黒岩	5	北橋	2
	伊藤	1	古屋	0

（審・岡村久、槇）

17（2）7MT（2）15

富士製鉄名古屋 26―18 日本鋼管京浜

（予選リーグの成績を適用）

【順位】⑤日進商会3勝 ⑥富士製鉄名古屋2勝1敗 ⑦日本鋼管京浜1勝2敗

（注）不参加の千代田印刷機製造は8位扱い。

〝2部〟システム一応の成果

男子トーナメント（日本協会杯）

▽1回戦

日本発条（神奈川）15（6―6／9―7）13 大山商会（大阪）

日新製鋼呉（広島）25（17―8／8―10）18 ブラザー工業（愛知）

日本鋼管福山（広島）25（12―12／13―12）24 日本碍子（愛知）

安田生命（東京）21（10―8／11―11）19 神戸製鋼（兵庫）

宗形製作所（大阪）15（7—5 8—7）12 三菱レイヨン大竹（広島）
タヨシ産業（愛知）19（10—10 9—8）18 静岡日野自動車（静岡）
自衛隊勝田（茨城）24（12—13 12—7）20 丸善石油下津（和歌山）
＝名古屋市体育館

大阪ガス（大阪）24（10—8 14—14）22 北陸電力（福井）
セントラル自動車（神奈川）25（16—10 9—7）17 京都信用金庫（京都）
三菱油化（三重）30（22—5 8—2）7 小松製作所（石川）
本田技研（三重）20（10—7 10—9）16 出光興産徳山（山口）
川崎重工（兵庫）20（10—13 10—5）18 自衛隊宇都宮（栃木）
富士レジン（兵庫）22（15—10 7—6）16 境港市役所（鳥取）
大成プレハブ（東京）28（14—10 14—11）21 トヨタ車体（愛知）
金沢市役所（石川）24（12—8 12—5）13 塚本商事（東京）
大同製鋼（愛知） 不戦勝 大阪機工（兵庫）
＝愛知県体育館

○……各チームの実力接近はめざましいものがあった。15試合のうち前半に2点以上差が開いたのは6試合しかない。2部制を布いた狙いは初日から成功という印象を強めた。

名古屋市体育館会場では日本鋼管福山×日本碍子、宗形×三菱レの2試合が面白かった。鋼管福山は後半15分17—20とリードされたが粘り、27分11度目の同点（22—22）。しかし碍子は22分餅原のゲットで24—23とし乱戦にケリをつけたかに見えた。ところが鋼管は残り1分西田が同点のゴールを決め、30秒後松村がベテランらしい巧技で逆転シュートを放ち、碍子を打棄った。

宗形×三菱レは1回戦屈指の好カードにふさわしく予断を許さぬ接戦となったが、宗形は後半7分8—8から村上、北田の連続好プレーで点差を開き、25分いちどは1点差につめられたものの逃げ切った。

○……愛知県体育館会場では優勝候補・本田技研に食い下った出光の健斗が注目された。

先手はたえず本田がとっていたが、出光も福島の好技を中心に得点、勝負を後半にもちこんだ。試合運びの巧い本田は後半開始と同時に一気にスパート、10分15—9と開いた。出光は終盤追いこんで23分には15—17としたのだが、あまりにも後半のスタートでの失点が大きくそれ以上はつめ寄れなかった。

大阪ガス×北陸電力は後半25分22—22ともつれたあと大阪ガスが田屋、恵美の連続ゲットで辛勝。

日本鋼管福山辛くも勝つ

▽2回戦

日新製鋼（呉）35（21—14 14—6）20 日本発条
日本鋼管福山 25（12—12 13—11）23 安田生命
自衛隊勝田 34（20—12 14—7）19 大阪ガス
宗形製作所 29（15—5 14—4）9 タヨシ産業
セントラル自動車 23（14—2 9—11）13 三菱油化
本田技研鈴鹿 21（14—7 7—4）11 川崎重工
富士レジン 23（10—10 13—11）21 大成プレハブ
大同製鋼 31（16—7 15—6）13 金沢市役所

○……ベストエイトの顔ぶれは一応順当といえた。

好試合を期待された富士×大成は、小林、狩山らまとまりの富士が大成の個人技を制した。ともにスピードプレーが少なく点差の割に緊迫感が乏しかった。

鋼管福山×安田生命は、安田が宮永、堀切に巧くボールを集めて善戦した。鋼管は後半2分15—11と4点差をつけて余祐をもったが安田もよく食い下り26分には斎藤のゲットで23—22と逆転した。

しかし鋼管はこのあと西田の連続得点で再び優位に立ち、29分藤島が止めを刺して辛くも勝った。

セントラル×三菱油化は、前半リードの三菱が、後半はまったく攻撃に鋭さを欠いて21分間無得点という低調からセントラルの反撃を許し自滅した。セントラルの成長が目についた。

本田技研、自衛隊勝田、宗形製作所、大同製鋼ら優勝候補は楽勝。日新は乱戦の末、日本発条をつきはなした。

宗形、自衛隊勝田を降す
日新、本田は苦戦の末進出

▽準々決勝

日新製鋼（呉）22（14—15 8—5）20 日本鋼管福山

同型チームだったが日新は鋼管の凡ミスを速攻に結びつけ徐々に点差を開いた。後半は一進一退となったが、日新は前半の優位で余祐があり鋼管を突きはなした（丸岡）

宗形製作所 12（6—6 6—5）11 自衛隊勝田

GKの好技をささえに有力チーム同士らしい接戦となったが、宗形は6—6から後半15分までに4点を奪って主導権を握り、押野を中心に粘る勝田を振り切った。互いに小さなミスが多かったが宗形の巧い試合運びが若さのぞく勝田を制した。（杉山）

本田技研鈴鹿 18（10—9 8—8）17 セントラル自動車

ともにポストプレーから得点しあい、勝負は最後10分にかかった。本田は後半23分15—14から大下（7MT）、三浦のゲットで優位に立ち、セントラル必死の反撃を辛くもかわしたセントラルの善戦が賞されよう。（岡本）

大同製鋼 27（13—9 14—7）16 富士レジン

前半、大同の速攻に富士はつききれず意外の大差となった。

後半になっても大同はペースを落とすことなく井上、西村、伊藤の左腕トリオとベテラン・戸谷の活躍で快勝した。（西川）

本田—宗形で決勝
日新と大同製鋼は敗退

▽準決勝

本田技研 19（10—8 9—5）13 大同製鋼

【大同】	得		【本田】	得
柳川	0	GK	南	0
		GK	加藤勇	0
松浦	1	FP	三浦	3
井上	1	FP	星野	2
西村	4	FP	末岡	6
戸谷	7	FP	大下	3
山本	0	FP	岩本	2
伊藤	0	FP	松岡	3
吉田	0	FP		
13	（0）	7MT	19	（2）

（審・門前、大橋）

○……立ちあがり本田技研は小さく速い動きを見せて大同ディフェンスをゆさぶり6分4—0とリードした。大同もそのあと立ち直り戸谷の好技で15分には5—4と逆転、面白いスタートとなった。しかし、ムラのない攻撃力を持つ本田は15分以後再び巧みなコンビネーションプレーから末岡の連続ゲットなどで優位に立ち、後半もスピーディなチームプレーで疲れのみえる大同を押しまくった。（岡村久）

▽宗形製作所 23（9—10、14—4）14 呉日新製鋼

得	【宗形】		【日新】	得
0	渡辺	GK	田中	0
5	青山	FP（審・丸岡 岡本）	沖谷	0
7	村上		吹上	1
1	中林		下茂	6
2	黒田		正岡	2
4	吉川		松木	3
4	北田		村川	2
0	桑原			
0	辻			
0	佐野			
23	（2）	7MT	（2）	14

○……日新は好スタートを切り5分3—0、10分5—2と優位に立った。しかしベテランを揃えた宗形はあわてることなく、要所で得た7MTを巧く活かしながら逆に試合のペースを握り20分には8—5とリード。日新もよく粘り、21分以後再び攻撃が好テンポとなって10—8と逆転したのだが主導権を奪うまでにはいたらなかった。

反撃のチャンスを待った宗形は後半開始直後村上のゲットで同点に追いつき、そのあとはガッチリ先手をとって、8分13—12、20分17—14と点差を開き、そのあとなおも6点を加えて快勝。巧さが若さを押しきった試合だ。（杉山）

女子決勝リーグ

	デ	大	田	東	ブ	紡	P	勝	敗	得	失
①大洋デ	…	○	●	○	○	○	8	4	1	75	31
②大崎電	●	…	○	○	○	○	8	4	1	69	38
③田村紡	○	●	…	○	○	○	8	4	1	51	39
④東京重	●	●	●	…	○	○	4	2	3	59	51
⑤ブラザ	●	●	●	●	…	○	2	1	4	38	64
⑥大洋紡	●	●	●	●	●	…	0	0	5	31	100

男子決勝リーグ

	大	三	常	住	P	勝	敗	得	失
①大崎電気	…	○	(○)	○	6	3	0	59	38
②三景	●	…	○	(○)	4	2	1	61	54
③常盤工業	(●)	●	…	○	2	1	2	61	62
④住友化学	●	(●)	●	…	0	0	3	36	63

Pはポイント。（ ）内は予選リーグの勝敗

宗形、本田を振り切る

▽決勝

宗形製作所 18（9—5、9—8）13 本田技研鈴鹿

得	【宗形】		【本田】	得
0	渡辺	GK	加藤勇	0
2	青山	FP（審・西川 河野）	加藤玉	0
7	村上		三浦	2
2	中村		星野	2
1	黒田		末岡	2
3	吉川		大下	3
3	北田		岩本	1
			松岡	3
18	（2）	7MT	（1）	13

○……ともにディフェンスにもろひとつ粘りがなく激しい得点の入れあいとなった。

しかし前半15分をすぎるあたりから宗形のスピーディな突進が本田の帰陣を上廻り、エース・村上が小気味のよいジャンプシュートをビシビシ決めて序々に点差を開いた。

後半本田は大下の好リードからベテラン松岡、末岡らが鋭い動きで得点、21分には12—13と追り試合を大いに盛りあげたが身長差を優る宗形はこ22分黒田のゴールで余裕をとりもどし、26分吉川（7MT）、27分村上で優勝を不動のものとした。

チームプレーでは本田が上とみられたが、個人の突進力を結集させた宗形がベテラン揃いらしい勝ちかたをみせた。

本田は、前半しばしば絶好機をシュートの失敗で逃したのがたたり、GK南の負傷欠場も大きくひびいていたようだ。（杉山）

田村紡、大洋に気力の一矢

女子リーグ

▽第1日

大洋デパート（熊本） 28（15—2、13—1）3 大洋紡（岐阜）

大崎電気（埼玉） 15（4—6、11—4）10 東京重機（東京）

田村紡（三重） 9（4—2、5—3）5 ブラザー工業（愛知）

○……大崎×重機は、重機がディフェンスの健斗で20分6—3とリードを奪う健斗をみせた。大崎はパスミスも多く不調だったが、後半開始後5分間に巧者・早川が連続3ポイントして逆転、重機は6分市塚のゲットでいちどはタイとしたが、立ち直った大崎は10分以後、速攻とサイドからすばやい攻撃を成功させ7点を連取、20分14—6と大勢を決めた。

○……田村×ブラザーは、田村が前半15分までに4—0と順調なスタートだったが、そのあと攻撃リズムに歯切れがなくなり、ブラザーの食い下りを許した。しかし地力では田村が一枚上、後半15分には8—3と開いた。

大洋デパート、大崎に快勝

▽第2日

東京重機 15（7—2、8—7）9 ブラザー工業

田村紡 16（10—3、6—5）8 大洋紡

大洋デパート 14（8—3、6—4）7 大崎電気

○……大洋デパート四冠王の第一関門とみられた対大崎だったが、大洋の気力にあふれた攻撃は相手にほとんどつけいるスキを与えなかった。

序盤は互角の戦況で進んだが15分をすぎてから大洋はポストプレー、ロング攻撃を使い分けて大崎のゴールを割り23分には6点差となった。

守ってもGK小原が定評どおりの好守をみせ、しかも攻撃陣へ好パスを送って勝利へ導いた。

▽第3日

大崎電気　20（14―3，6―2）5　大洋紡
大洋デパート　13（7―4，6―2）6　ブラザー工業
田村紡　11（4―5，7―2）7　東京重機

○……5点差をつけられた重機が後半に入って田村を追いこんだ一戦が面白かった。

田村ディフェンスの乱れをついた重機は滝口のシャープな動きから得点機をつかみ、牧野、島田らのゲットで9分6―8。しかし田村紡は10分をすぎてからようやく守りがととのい、重機の反撃をそこまでに食いとめた。そして16分18分の7MTを小林、三毛が確実に決めて4点をリード、逃げこんだ。

大崎、田村紡を破る

▽第4日
ブラザー工業　15（7―9，8―2）11　大洋紡
大洋デパート　12（7―2，5―4）6　東京重機
大崎電気　11（7―2，4―4）6　田村紡

○……3試合とも実力伯仲の面白い試合だった。

ブラザー×大洋紡はともに「この一戦だけは」の気持ちが現れ乱戦となったが、攻守に一日の長あるブラザーは前半10分から帰陣の遅い大洋紡ディフェンスをついて連続8点をあげ、試合の主導権を握った。大洋紡は後半、平野の活躍で20分10―12まで追いあげたが及ばなかった。

○……大洋デパート×重機は、重機のすばらしい攻撃で熱戦となった。2―0とリードされた重機は13分鷺谷のゲットを口火に一気に3―2と逆転した。ここでもう一押しあればさらに試合展開は判らなくなっただろうが、大洋の激しいディフェンスに成らず、逆に3点を失って大洋に落ち着きをとりもどさせてしまった。こうなると大洋デは強い。後半5分から3分間にたたみかけるような速攻の連発で9―4。そのままのペースで善戦の重機を押し切った。

○……大崎×田村は、大崎・早川、田村・小林の両ベテランの好リードから一進一退の接戦を演じた。

勝負のかかった後半、田村紡は攻撃が単調になってミスが目立ち、大崎の逆速攻で3点を失った。この点差はプレーのうえにもはっきり現れ、田村紡は元気のないままズルズルと敗れた。この結果、大洋デパートが4勝をマークして単独首位。得失点差もプラス45と圧倒的で、宿願の〝四冠王〟は九分どおり確実となった。

大洋デ、攻守に鋭さ欠く

▽第5日
東京重機　21（11―2，10―3）5　大洋紡
大崎電気　16（9―0，7―3）3　ブラザー工業
田村紡　9（3―4，6―4）8　大洋デパート

○……田村紡の気力はすばらしいの一語につきた。四冠王をほぼ掌中にした大洋デパートにスキがあったとしてもそれは責められない田村紡の斗志は〝四冠王〟の先輩チームとしての意地でもあった。

小林、GK渡辺美が往時を偲ばす美技を連続させ、三毛、金田、広森らが実にのびのびと戦った。

○……大洋デパートの追撃も迫力があった。しかし田村紡のすばやい帰陣とはげしいマークにあってミスパスが目立った。それでも渡辺、垂水、枝尾が必死の反撃を示し残り2分で1点差に追いあげたのだ。残り1分で大洋ボール。一気のなだれこみから枝尾のシュートは田村紡FPの手をはじいてゴールをそれ、ラインを割ったかにみえた。ところがGK渡辺美が頭からとびこむようなスライディング・カットでこのボールをコーナースローにするのを防いだ。

○……渡辺美の好プレーは大洋デパートの「全勝で四冠王を」という野望を打ちくだいた快技であった。残り35秒、田村紡は小林が単身ドリブルで大洋の当りをかわして勝った。激烈な女子実業団の今シーズン最後を飾るにふさわしい好試合だった。

GKに西牧（三景）ベストセブン

全日本実連では大会終了後、この大会のベストセブンを次のように決め表彰した。

【男子】▽GK西牧健二（三景）▽FP平岡秀夫、西村功、谷口俊郎（以上大崎電気）、高梨豊（三景）、加藤久勝（住化菊本）、高橋勲（常盤工業）【女子】▽GK小原名苗（大洋デパート）▽FP垂水秀代、渡辺須和子、枝尾清女（以上大洋デパート）三浦朝子（大崎電気）、小林五子（田村紡）、滝口治代（東京重機）

三菱レ大竹など表彰

全日本実連では第10回大会を記念して、これまでの大会発展に功績のあった次の16チームを表彰した。自衛隊勝田（茨城）、大崎電気（埼玉）、安田生命（東京）、日本鋼管京浜（神奈川）、タヨシ産業大同製鋼（以上愛知）、本田技研（三重）、京都信用金庫（京都）、宗形製作所（大阪）、丸善石油下津（和歌山）、川崎重工（兵庫）、三菱レイヨン大竹（広島）、住友化学菊本（愛媛）＝以上男子
大崎電気（埼玉）、田村紡（三重）大洋デパート（熊本）＝以上女子

女子個人得点

【大洋デ】	紡	大	ブ	東	田
K 小原	0	0	0	0	0
安部	0	×	×	×	0
F 垂水	5	4	5	6	1
米	4	3	0	2	1
渡辺	3	4	2	0	1
三宅	0	0	×	0	0
枝尾	6	1	3	1	3
島田	4	0	1	2	2
蔵田	3	1	1	1	0
田中	0	0	1	×	0
劒	0	1	0	×	0
小林	3	0	×	×	0
	28	14	13	12	8

【大崎】	東	デ	紡	田	ブ
K 山田	0	0	0	0	0
小堀	×	×	×	×	0
F 木幡	3	3	1	2	3
三浦	1	1	6	4	1
山崎	2	0	2	0	0
寺尾	4	0	5	2	7
加藤	1	×	0	0	0
早川	3	2	4	3	4
小林	0	0	0	0	0
新島	0	0	2	×	1
久保田	1	0	0	×	×
栗林	0	1	×	×	×
	15	7	20	11	16

【田村紡】	ブ	紡	東	大	デ
K 渡辺美	0	0	0	0	0
F 三毛	2	3	0	0	2
小林	3	4	5	3	2
若林	0	0	3	0	×
渡辺好	0	3	2	0	0
金田	0	×	0	0	2
辻	2	4	1	2	0
久保田	1	0	0	0	×
広森	1	2	0	1	3
	9	16	11	6	9

【東京重】	大	ブ	田	デ	紡
K 川本	0	0	0	0	0
F 滝口	4	5	1	0	4
島田	1	1	1	2	3
長谷川	2	3	0	0	0
牧野	1	4	3	1	5
市塚	1	2	1	1	3
村上	0	×	×	1	1
鷺谷	1	0	0	1	1
金井	0	×	1	×	1
古佐原	0	×	×	×	3
蜷川	0	×	×	×	×
	10	15	7	6	21

【ブラザ】	田	東	デ	紡	大
K 安谷	0	0	0	0	0
佐久間	×	×	×	×	0
F 五十嵐	2	3	2	4	1
朝倉	2	0	1	1	1
日浦	0	0	0	0	1
山本	0	2	0	4	0
浜島	0	0	0	3	0
中野	1	4	1	3	0
松原	×	0	×	×	0
	5	9	4	15	3

【大洋紡】	デ	田	大	ブ	東
K 高田	0	0	0	0	0
F 真田	1	0	0	1	0
平野	1	5	2	5	4
鞍富	0	2	0	1	1
森本	1	1	1	0	0
石井	0	0	1	0	0
山根	0	0	1	4	0
	3	8	5	11	5



4冠王飾った大洋デパート

―史上3度目の栄光―

□……大洋デパート（写真）にしてみればやはり〝四冠王〟は全勝で飾りたかったに違いない。

田村紡ベンチが優勝したかのような大喜びをしているのに引きかえ、ガックリとうなだれた選手の姿には疲れさえ感じられた。

□……その暗さも表彰式で次から次へと賞状カップを渡される頃にはすっかり陽気さをとりもどした。

大洋デパートは、昨年くれの全日本選抜でも、大崎電気に土をつけられており得点率での優勝となっている。

しかし、この群雄割拠の時代に4大タイトルを独占するのは大変なことだ。ましてや大洋デパートの場合は、前年度も出場したすべての全国大会（全日本選抜を除く三大会）に優勝を記録しているのである。偉業だ。

□……井薫監督（中大出）は『今シーズンは4大タイトル独占ということを意識して練習にはげんで来たのですから、その目標を達せてこんなに嬉しいことはありません。全日本選抜と全本実業団で全勝できなかったのは残念ですが勝負強さというものにまだ欠ける面があるからでしょう。4大会のうち、最も好調だったのは長崎国体で、この時のような攻守をいつでも発揮できるよういっそう努力して来シーズンも四冠王に挑戦します』といっている

□……四冠王には先輩がある。昭和36年度の愛知紡（廃部）と42年度の田村紡だ。

関係者やファンの間には、この三者の強さくらべが大きな話題になっている。双葉山と大鵬のどちらが強いかという論議にも似ているが、〝最強〟を求めるファン心理というものだろう。本誌編集部の調べた数字は別表のようなものになる。

村田選手強化対策委員長は三チームをこんなふうに表現してくれた。『技心の力強さで愛知紡、速さと巧さで田村紡、鋭さで大洋デパート……。』

（S）

	総合	国体	選抜	実業団
愛知紡（36年）	3勝（得38、失10）	3勝（25、10）	4勝（49、21）	2勝（41、6）
田村紡（42年）	5勝（77、24）	3勝（34、15）	4勝（32、21）	4勝（44、27）
大洋デ（44年）	5勝（69、21）	3勝（46、16）	2勝1敗（26、21）	4勝1敗（75、31）



・特集・ 1969年度を顧みて

多彩だった競技面の話題

日本協会……杉山　茂

卒直にいって、日本協会のこの一年間は反省の一年であった。

田村会長自らの陣頭指揮により年度後半になって、協会活動はかなり盛り返されたというものの、もし競技面で後述のような活気のある動きがなかったなら、今年度の日本ハンドボール界はまったく〝消沈の一年〟に終ったであろう。

上半期に布いた合議運営は必しも失敗ではなかったが実働力に欠けたため半年で理事長制が復活した。

特に6月欧州遠征した全日本選手を所属チームに帰さぬという強硬策は、本部の意志が地方によく理解されずかえって不信をかい、しかも8月の全日本総合直前になって解禁したのは混乱に拍車をかけることになった。

当時の合議スタッフ全員が会長に進退を一任したのも当然のことであり、それが10月からの新体制スタートにつながった。

機構・人事面での手直しばかりに日時を費したため、肝心の協会運営に何ひとつ〝前進〟がなくたとえば懸案の全日本選手権検討も次年度に持ちこされたし新規事業の立案もなかった。

誠に遺憾なことではあるが今年度に得た反省を活かして来年度以降活溌な施策を展ずることを誓いたい。

運営面の低迷に引きかえ、競技面では全日本男子が史上初の欧州における強化合宿を実現したことをはじめ女子大洋デパート（熊本）の4大タイトル独占、高校界における下関中央工（山口）、新居浜市商（愛媛）の抜群の攻守、日韓高校の東京開催、日体大（東京）の韓国遠征、山田計氏（常務理事）のIHF国際審判員講習会出席、全日本選抜の精鋭化など実に話題が多かった。特にミュンヘンオリンピックをめざす全日本男子の頂点強化はかってない充実で、通算10回にわたる強化合宿や同チーム国内サーキット、さらには世界選手権代表の厳選など注目を集めた。

（日本協会常務理事）

【カット写真は7月キールにおける日本対西独戦から】



（写真）　4大タイトル最初の栄冠。大洋デパートの全日本総合（8月・岩手）における試合ぶり　（光島磯雄氏撮影）

活況の反面、転換機迎える

全日本学連……奥川正春

学生生活、大学スポーツそのものが大きくゆれ動くなかで学生ハンドボール界のこの一年間はともかくも順調な歩みを遂げたといってよいだろう。

競技面においては日体大が全日本学生、関東学生春秋の三タイトルを一人じめにして文字どおり学生界最高峰の座をゆるぎないものにしたほか、東西対抗における西軍の快勝（5年ぶり）、東京女体大の全日本学生初優勝と日体大女子の連勝ストップなどが話題となり、また世界選手権代表に現役から4人を送りこみ、日体大が二度目の韓国遠征を行ったことも特筆されよう。

こうした例年にない活況の反面、学生ハンドボール界が一つの転機に立たされていることも否めない。

加盟校の増加から、そのリーグ運営に抜本的検討を迫られる連盟が東西を問わず多くなっていながら、各校の部員数はむしろ低減しているという現象は、やがては学生界（学連）に深刻な問題を投げかけるのではなかろうか。

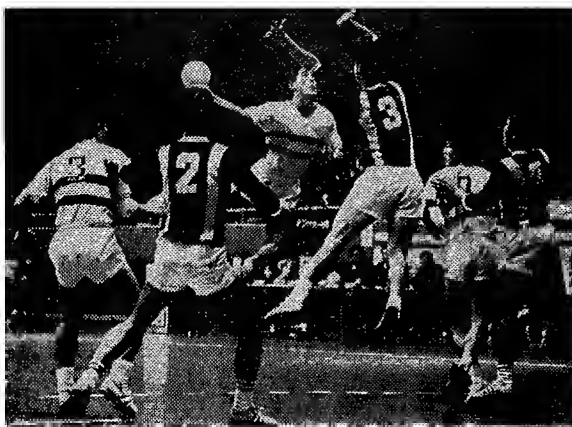
部員数の減少からチームの存続がやっとという部が多いような状態では、強化（レベルアップ）など望むべくもない。

選手層の厚い学校とそうでない学校との隔差は今後拡がる一方であろう。それが学生界そのものの低迷につながりはしないか。今シーズンの活況を決して手ばなしでは喜べないのである。

さらに、学連活動そのものも規約の大巾改正に見られるように前年の事業を引きつぐだけ、というイージーな行きかたも許されなくなって来ていると思う。それだけ学連が成長したことを自負してもよいのだ。

同ようのことは、各学連のリーグ戦の運営面にも云える。種々の面で日本のトップレベルを自負し外見は一見華やかな学生界ではあるが、その運営面での実状は淋しい。各地のリーグ戦で実際の運営にあたっているのは、一部の理事と委員である。これらの人が一人三役も四役も引き受け、やっと大会が成立しているのが現状である。各チームの監督が審判をやるといったことはさけなければならないのだが、現状では望めない。OBの建設的な協力を望みたいものだ。

（全日本学連委員長・早大4年）



（写真） 今シーズン学生界の全タイトルを掌中にした日体大の豪快な試合ぶり＝全日本学生決勝（光島氏撮影）

特筆される下関中央工の二冠

全国高体連……嶋田 新太郎

高体連としては、なんといっても昭和四十四年は創設二十年を迎えた記念すべき年であった。

第二十回全日本高等学校ハンドボール選手権大会が群馬県富岡市で開催された時、記念式典・祝賀会、記念展示会を計画し、富岡高校体育館で参加チーム代表監督、選手並に来実多数を迎えて記念式典を挙行、これまでの発展に尽力された都道府県の方々の表彰や感謝状の贈呈を行って微意を表した。

又、全国登録チームに対しては、記念誌・記念タオルを貼布し、いささかなりともこの二十周年に対する御協力をお願いし、なんとか記念行事を滞りなくできたことに対し厚く誌上をかりて感謝申上げる次第であります。

二十回大会も全国より最高の男女百二チームの参加を得て、新旧いり交っての大熱戦が展開された。男子では、前年度優勝の下関中央工業高校（山口）に対し、矢張り前年準優勝の中大附高校（東京）の決戦となり、下関中央工業高校の二連覇となった。

女子では、前年準優勝であった新居浜市立女子商高（愛媛）と栃木女子高校の争いになり、結局新居浜市立女子商高の初優勝がなりのである。その間男子の部では、地元富岡高校、桐生工業高校の健斗目覚しく強豪を倒して準決勝に進出、地元二チームが揃って三位を獲得したことは立派であった。

日韓親善スポーツ大会は、東京で開催され、ハンドボールでは、下関中央工業高校と中大附属高校の二チームが参加した。韓国の実力は、技術的に見て素晴しいものではないが、エリア内のパスをサージャンプによるシュートが成功、中大附属高校が破れ、下関中央工業高校が引分けるという成績で終った。

昨年は、下関中央工業高校が韓国に於いて一敗一勝一分本年は一勝一分と五分の成績はいただけない。日本としても、これからの国際試合を前に原動力となる高校チームの実力向上に反省を加えると同時に今後の精進が望まれる。

国体は長崎で開催されたが、高校チームは男女各十チームの制限があり、各都道府県は単独または混成チームは編成してこれに当った。

男子では下関中央工業高校が初優勝、女子では新居浜市立女子商高がインターハイに続いて優勝した。国体出場チームの単独、混成チームの善悪しは別として、混成にする場合のチームワークのとり方にも色々問題があるし、今後どのような方法で各県が取組んでくるか一つの焦点となろう。

次に、とり上げる問題として全国高体連ハンドボール部の部長であるが、明星高校長の児玉九十先生が、長らくお忙しい身体を部のため御尽力いただきましたが、御都合によりおやめになりたいということで、部としては来年の役員改選までどうするかで審議した結果、二十年来副部長として事実上高体連ハンドボール部のため粉骨細心努力してこられた徳永陸繁先生を部長におすこととして定例委員会の承認をうけた。徳永先生の人間性はすでに御承知の通り、一途にハンドボールを愛し、このことのみに専念してこられただけに意義のある適当なお人かと思い、過去二十年の歴史に加うるに今後の発展を期し昭和四十四年度の反省といたします。

（全国高体連副部長）

（写真） 実力伯仲の高校界で２年連続優勝した下関中央工の力は高く評価されてよい



持ちこした新しい企画

全日本実連……田中滋章

まづ第10回記念全日本実業団ハンドボール選手権大会が無事盛大に終了したことをご報告し、関係各位のご協力に深く感謝いたします。

全日本実業団選手権が10年目を迎え、全日本実連或いは各実業団チームが一つの過渡期にさしかかった昭和44年度に私が理事長を引受け、すべきことが多々あったにもかかわらず結論的には結果の良否は別にして記念大会にリーグ戦を採用したことぐらいであった。

しかし下位の協会杯トーナメントが高松宮杯に結びつかない欠点はあったにしても、上位8チームの激突は各チームの強化に結びつき、又好ゲームを観戦できたことからいっても収獲が多く全般に好評であった。



(写真) 全日本教職員に初出場で優勝した東京教員ク

その他本年度から若手の働らける理事に総入替し実連の運営一切を私ほかの若手ですることにより従来までとは異った新らしいアイデアも生まれたが、実行するまでに至っておらず次年度に持越してしまった。私が名古屋で、連盟及び常務理事が東京というギャップが実行を阻害していたので45年度からはそういうことのないようにしたいと思っている。

このところ経済界は好調をつづけ人的資源にも不足している折りから仕事の忙がしさに追われチームの増加、大会への参加が著しく制限され、そこに三菱鉛筆の廃部の問題、千代田印刷機製造などの大会棄権の問題が生じてきている。これはたゞ単に日本協会の懲罰規定うんぬんということより実業団チームがすべて抱えている問題であり、今後いかに解決してゆくか、又実業団チームはいかにあるべきかということをハンドボールだけにかぎらず他の競技団体ともどう考えてゆかねばならないことだと思う。

この原稿が載るころにはすでに世界男子7人制選手権の結果が分っていることでしょうが、ナショナルチームに多数選手を送り出している実連としては、今後も日本協会と手をつなぎミュンヘンオリンピックを目指して出来るかぎりの協力をしていく所存ですし、又してゆかねばならないと思っています。この一年色々とお世話になり感謝申上げるとともに、今後共ご指導ご鞭撻の程をお願い致します。(全日本実業団連盟理事長)

意義深い結成1年目

全日本教職連……渋谷行康

一昨年十二月、教職員ティーム待望の設立準備委員会を全国各ブロックの代表に御参集願い、静岡県協会の御骨おりで清水市で開催規約などの立案検討をなし、翌年一月、東京に各ブロック準備委員に再び参集願い最終決定のあと日本協会に登録手続きをし認定され昭和44年4月1日から全日本教職員ハンドボール連盟として発足した。

役員は、理事長、副理事長、常務理事、各ブロック担当理事、事務局長を選任し委嘱した。そして初代理事長に山田計氏を迎え運営を開始した。

本連盟は各教育機関の指導者層から構成されるので、その事業内容も選手権大会の開催もさることながら、指導者講習会の開催による底辺の拡充への協力、スポーツを科学する研究ならびに発表、ハンドボール選手の技術・体力等の向上に資する方法や資料の調査統計など巾ひろく連盟傘下の指導者が研さん出来るように方向づけをしている。その中で年間最低一回講習会の開催や、選手権大会期間中における研修会の開催など考えを進めて来た。

連盟結成第1回、通算第12回の全日本教職員選手権大会は埼玉協会の御努力により、8月13日から3日間、埼玉県上尾市の上尾体育館において28チームの参加を得て行われた。遠く沖縄教員ティーム初参加と過去11回の大会をふりかえって参加ティームも最大の数を数え、まさに連盟結成の記念大会となったことは特筆され、歴史に残るであろう。優勝が初出場の東京教員によって飾られたのも話題であった。

この期間中、別掲のごとき講習会が開かれた。(本誌18～23頁参照)

昨年十二月には静岡県で全国理事会を28名の出席を得て開催した

この折は、日本協会荒川理事長にも出席願い現況について話していただいた。

議事内容は別掲の通り(本誌27頁参照)

今後は前述のごとく、教員公務員層の連盟として、その品位と指導性を発揮し、たえまなく底辺の拡充につとめるとともに、種々研究調査を重ねてハンドボール技術に科学的要素を多々採り入れ、近代化した連盟として運営を進めたい。とにかく、本連盟の発足は一年目とはいえ非常に結集が固く、大会時にも見られたように和やかな雰囲気の中での交流や、地方間における意見交換などが活発になされたり誠に意義深いものがあった。(全日本教職員連盟常任理事)

昭和四十五年度
競技規則改正について

審判部長　安藤純光

日本のハンドボール技術も世界のトップレベルに是が非でも到達しなければならないときを迎えた。ミュンヘンを目指しての第一の関門である第七回世界選手権大会の開幕も間近にせまっている。日本選手団の健斗を期待したいものである。

この技術にもっとも影響を与えるものは、競技規則とその規則の施行を見守るレフェリーの審判技術であることは、ことあらためて云うまでもないことである。国際連盟技術委員会においても絶えず技術に対する規則を研究し、また規則に対する技術を探究しつづけてますます高度な技術が生まれようとしている。

昭和四十五年度の競技規則の改正および修正は、昨年七月にマドリッドで開催された国際審判会議の決定を基礎にしたものである。会議において結論づけられたものの中には、すでに日本で実施されているものもあるが、新らしい規定もいくつか出ている。とくに四十四年より国際規則となった複審制については「複審制に関する留意事項」という「複審制に関する規範」とほとんど同内容のものを再び提示しているところをみると国内におけると同様にまだまだ問題があることを推測できる。

以下に今回の改正点および修正点を若干の説明とともに述べる。

1の1（注）で競技場の大きさを「40m×20mが標準である」とした。大会時の雨のときの室内競技場の大きさについて論議が行なわれたが文章化するに至らなかった。

3の2〔原注〕(1)レフェリーは負傷者が重傷であると判断したらただちに競技を中断させる。

(2)レフェリーは負傷者がでたらすぐ医者かチームの責任者を呼ぶ。その前には誰も競技場に入れてはいけない。

(3)レフェリーは負傷したプレイヤーをみて軽度であると判断したときはそのときの一連のプレイが終るのをまち中断させる。

(4)レフェリーは負傷者が「お芝居」をしたと判断したときは、反スポーツマン的態度として罰する（警告、退場）。

※競技中のプレイヤーの負傷があった場合の処置についての規定である。さして問題となる点はないように考えられるが、技術が進歩し、ますますスピード化することにともなって、プレイヤーの傷害の問題も多くなることが予想される。レフェリーは競技における傷害問題をできるだけさけ、予防することに意をそそぐべきであるが、傷害に対する判断力をもつことが必要である。

3の7（注）……全日本大会に参加する場合は必らずはっきりと区別できるユニフォームを2着用意しなければならない。

（番号の例）15名大会申込みできる場合には、№1から順に№15までの番号をつける。№1と№12はゴールキーパーであるが3人目4人目のゴールキーパーは№13以後にする。

（ユニフォームの例）色の全く違うもの、濃淡のはっきりしているものなど。

※従来から実施されていたのであるが、徹底を欠いているので文章化したのである。

4の8（注）最後の一投とは、7mスロー、フリースローであってコーナースローは含まない。

※コーナースローもフリースロー、7mスローと同様に直接得点することができるが、フリースロー、7mスローは相手の反則によって生ずるスローである。コーナースローは反則ではなくボールがゴールラインから出たことによって生ずるスローである。したがって最後の一投の対象にはならない。

4の10（注）その大会の申し合せによって延長戦、または再競技を行なわず引き分けにすることができる。勝敗を決定しなければならないときは第1延長戦のあと抽せん、または第2延長戦のあと抽せんによって決定することができる。

6の8（注）相手に対して脚をあげて防禦してはならない。

※防禦のために脚をあげる動作がときおり見られるが、脚をあげることは相手に危害を与える原因になるので、危害予防から禁じられる。

7の3〔原注〕競技の運行に影響をおよぼさないゴールエリア内のプレイヤーは「死んだ」ものとしてあつかわれる。

7の3（注）ゴールエリアの上へ跳んで味方にパスをし、ゴールエリア内に落ちた際の「悪い動作」は次のような場合をいう。

①ゴールポストの巾（正面）で行なった場合。

②サイドでパスをしたプレイヤーがゴールキーパーの前を横切る。

③パスしたプレイヤーが中央の方向へ出て来てはいけない。

④パスしたプレイヤーが次の動作でゴールキーパーに少しでも近づいてはいけない。

⑤パスする前に身体の一部がエリア内の地面（床）についてはいけない。

⑥ゴールのうしろをまわって反対側へ行ってはいけない。

※この項は今回の改正の中で、もっとも注目されるところであり技術的にも変化をもたらすであろうと考えられる。この改正によって条文にあるように「プレイヤーがボールを投げた後に、ゴールエリア内にふみ入った場合には、それが相手方に何の不利益も与えない場合に限り、罰則が与えられない。」という文章の通りになったわけである。つまりこの条文にはシュートの際だけという制約はないのである。

しかしこのプレイには（注）にあるような制約がある。ここで問題になるのは、①のこのプレイの許される範囲（位置）である。これについては規則研究委員会、審判部合同会議において長時間にわたって論議を重ねた。どこまでの範囲とはっきり区別のできる性質のものではないし、また競技場にマークすることもできないが、ゴールラインから3m（両サイド）をめやすにするという結論を得た。根本にある考え方は、条文にある「相手方に何の不利益も与えない場合」〔原注〕にある「競技

の運行に影響をおよぼさない」という点にあるので、この点を強調してこのような位置と、（注）にふれないプレイの場合には反則ではないと判断することになった。

この項は、プレイヤーにとってもレフェリーにとっても今年度の大きな課題になるであろうと思われる。審判部としてもさらに研究すべき項である。

10の2（注）室内の場合、競技場の上の施設にボールがふれたときは次のように判定する。

(1)サイドライン外に落ちたときは最後にふれた反対側のスローイン（落ちた位置）。

(2)フイルドに落ちたときはレフェリースロー（落ちた位置）。

(3)ゴールエリア内に落ちたときはゴールスロー。

(4)ゴールラインのうしろに落ちたときは最後にふれた反対側のスロー（ゴールスローかコーナースロー）。

12の1（原注）キーパーボールのスローとゴールスローに対して、ゴールエリア内で防害したときは次のように罰せられる。

(1)キーパーボールのスローを妨害したときはただちに注意を与えて「退場」させる（反スポーツマン的態度）。

(2)ゴールスローの妨害をしたときはまず「警告」を与えて2度目のときは「退場」させる。

※このようなプレイはときどき見られるが、それに対する処置が明確にされた。キーパーボールの場合には直接得点することもできるので、ゴールスローの場合のあつかいと相異があるわけである。

12の2（注）ゴールキーパーがボールを持ってゴールエリアに入り、さらにゴールエリアを出て（フイルド）ゴールスローをした場合にはボールを持ってゴールエリアを出たことになる。8の4により相手側のフリースロー。

※ゴールスローの場合にキーパーがボールを持って一度ゴールエリアに入った（ゴールスローができる）にもかかわらず、ゴールエリアを横ぎってボールを持ったままフィルドに出た場合のことで、ゴールスローのやりなおしではなく、ボールを持って出たと判定する。

13の2（原注）(1)フリースローの際、3mの距離は厳重に守らなければならない。

(2)フリースローなど罰則のスローの際、ボールを持った者が正しい位置につき、笛の鳴ったあとではドリブルしてはいけない（警告フリースロー）。

13の2（注）フリースローの際ボールを持って正しい位置についたならば、ボールをドリブルしたり、下に置いたりしてはならない（警告）。

※ボールを持ってポイントに立っていながらボールをドリブルしたり、下に置いたりする動作をすることがあるが、正しい動作ではないので笛が鳴るフリースロー、笛が鳴らないフリースローにかかわらず「警告」を与える。

14の4（注）レフェリーはプレイヤーが正しい位置にいることを確認してスローを行なわせる。

※7mスローの項であるが、プレイヤーが不正な位置にいるときには、レフェリーは位置を正してからスローを行なわせる。にもかかわらず不正な位置にいた場合は反則である。

16の7（注）防禦側の不正配置を正すのに時間がかからぬよう早く、適切な処置をしなければならない。たとえば防禦側が3m以内からなかなか離れないときは、レフェリーはすぐボールを持って正しい位置につかせてからボールを渡し、笛でフリースローを行なわせる。繰り返し不正な配置を行なうときは「警告」を与える。

※13の2（原注）(1)とあわせて常に問題になるところである。この処置が手ぎわよく、適切に、すみやかに行なわれなければならない。

17の1（注）レフェリーが傷病の場合は、かわりのレフェリーが交代して行なう。

17の6（原注）ボールを放り出したり、持って行ったり、あるいはそれに類似した行為は反スポーツマン的態度として「警告」「退場」「追放」することによって罰せられる。

17の13〈申し合せ〉自信をもって笛を吹き反則の状況によって強弱、長短をつけるようにする。たとえば7mスローになるような重大な反則が行なわれたときは強く長く吹く。

※笛の強さ、長さで判定がわかるような笛の吹き方が望ましい。

「複審制に関する留意事項」は先にも述べたように規範と重複している点が多いので省略するが、

V特別な指示

(1)原則的にはスローの行なわれる後方に位置しているレフェリーが笛を吹く。

(2)7mスロー、コーナースローの場合だけ例外で常にゴールレフェリーが笛を吹く。

この項だけつけ加えておく。

▲昭和四十五年度版競技規則書はすでに各位のお手もとに渡っていることと存じますが、講習会に間に合せるためにいそぎましたので校正の不充分さもあり随処にミスがあり、各位に大変御迷惑をおかけしていることと存じます。正誤表を印刷中でありますので、でき次第各都道府県協会あてお送り致します。誌上を借りて深くおわび申しあげます。

ハンドボール研修会の報告

渡辺慶寿
北川勇喜

昭和四十四年、八月十四日、埼玉県浦和市立高校において、ハンドボール研修会を開催し、多大の成果を収めたので、ここに、その概要を報告します。

この研修会は、現在理事長である、荒川清美氏の、前々からの念願であり、その意志を継いで、東京在住のハンドボール愛好者が、教職員大会の独自性を打ち出すべく企画し、実行したものでありますが、この成果が認められ来年度より、教職員大会の行事の一環として継続実施することが決定されたことは、我々準備委員として、大きな喜こびとするところです。

この点、今回の研修会開催に、いろいろ、御助言、御支援下され、更に、来年度より正式に採択していただきました教職員連盟理事長の山田先生、及びその他の理事の方々、会場をお貸し下さいました浦和市立高校、そのお世話をしていただいた埼玉県ハンドボール協会理事の遠藤健次氏、視聴覚器具機材の使用にあたり、直接準備、御指導をしてくれました古川巌先生、講演を快よく引受けて下さいました東大神田教授、同広田公一教授、試合前のコンデショニングをしなければならない遠路の沖縄選手をはじめ数多くの選手達の参加で、盛大、且、有意義な、研修会に終りましたことについて紙上を借りて厚くお礼申し上げます。

研修会内容

一、挨拶　　荒川清美
一、講演　①トレーニング概論
　広田公一
　⑪現代スポーツ論　神田順治
一、遠征報告
　①ナショナルチーム・ヨーロッパ遠征　村田　弘
　⑪韓国遠征　荒川清美
　㈧国際ハンドボール審判会議
　山田　計
一、研究資料説明　渡辺慶寿
一、協会長挨拶　田村正衛

まず、冒頭の挨拶で、荒川理事長は、「東京オリンピックを契機に、各競技団体の進歩は目ざましいものがあるが、このことは、スポーツ及び技術を、単に、経験主義的に考えることから、科学的な理論と実際というものを、常に、両者一体化をねらって努力している結果である。しかるに、我がハンドボール界を省りみる時に、残念ながら、この面に欠けていることは事実であり、今後、ハンドボールが益々充実し、発展していく為には、時代的な背景を踏まえてもっともっと、ハンドボールを科学化し、これを追求していかなければならないと痛感する。したがってこの研修会の目的は、我々が常に、実践指導段階において、悩み、疑問を持っているものを持ちより、科学的な目でとらえ、解決し、常に新鮮で、意欲的な指導をすることに心がけることにおいて真の教育的意義があり、この会の価値感をより高めることにもなるわけである。この意味において、今後、この会が益々、盛大、且、格調の高い充実した会に発展していくことを切に願っている」旨述べられました。

続いて、講演にうつり、ハンドボール医事担当の広田公一先生がトレーニング概論、日本で、一番野球を知っているといわれている神田順治先生が、現代スポーツ論を講演して下さいましたが、両講演とも、指導者にとっても、選手にとっても、大変、プラスになる内容でしたので、概要をあとでお知らせいたします。

次に、ナショナルチームを率いて二カ月間に亘る、ヨーロッパ遠征を行った監督の村田氏は、次のように報告しました。

まず、この度の遠征で痛感し、又指摘されたことは、体力の面で今後、日本選手は、自覚を新たにし、充実した考え方をもち、それを実行する努力がなければならない。技術の面では、さほど学ぶものはなかったし、又、練習の内容方法についても、これという新しい方法は見られなかった。只ルーマニヤにおいて採用している、インターバル方式やハードトレーニング方式には我々も見解を新たにし、日本でも是非、取り入れる必要があると感じた。いわゆる正しく、速い技術の定着には、ルーマニヤ選手にとって、このトレーニング方法が最適であり、これが勝利へつながるのだというトレーナーの信念のもとに、ひたむきに努力している選手の姿を見た時に、世界を制覇したルーマニヤの強さの一端を、うかがえた。

また、我々がコーチを受けた、ルーマニヤのあるトレーナーが、大変参考になる意見を述べてくれた。ルーマニヤのバレーボールはメキシコのオリンピックで大きな失敗をした。それは、日本流のハードトレーニング方式を、そのまま取り入れたからである。こういう誤ちを、君達は犯してはならない。なぜならば我々は、ルーマニヤ国民であり、諸君達は、あくまで、日本国民なのだから、ここで学んだことが全て、日本の選手に適用するとは限らない。テクニッ

クというものは、これを入れる大きな袋があり、その中に数多くのテクニックを、一つ一つ入れることだ。テクニックの中には、相当負荷をかけ、更に、時間をかけて得なければならないものもある。このような方法や手段で、収得されたテクニックを、ゲームにおいてのプレー時に、最も適したものを、素早く、袋の中から取り出して使い、相手に勝つことである、と述べたが、この言葉の中に、大切な示唆があり、我々ナショナルチームも見たもの感じたもの、コーチされたものを、そのまま、受け入れるのではなく、広い視野のもとに、日本人に適した技術を、日本的な方法で練習し、チーム力向上に努めたいと話された。

韓国遠征の荒川監督、北川コーチも、口をそろえて、体力面についての強い印象を述べ、「韓国各チームの選手は現時点において、技術や戦術それを生かしたチームプレーでは、日体の選手に比べ劣っているが、勝負を決する大切な一要素である体力面で、特に日本選手に見られないジャンプ力と持久力において秀れており、現在我々の方が総合力において、一日の長あれど、近い将来、必ず、強敵となることと思う。」と述べた。

特に、ビデオテープ及び十六ミリフイルムを使って、説明したので、参加者に好評を博した。

次にスペインで開催された国際審判会議に出席された、山田計氏の報告がありましたが、これについては、本誌に、すでに紹介されましたので、省略いたします。

現代スポーツ論

神田順治

スポーツは哲学がなければならない。人間がやるのだということを最初に言います。現在科学的な体力の方法としてウエイト・トレーニング、サーキット・トレーニングをやるのが一番筋力トレーニングによくて又スタミナがつくと言われている。事実生理学的にいえばそうでしょう。しかしスタミナということは、私の好きな言葉は井上友一郎という作家がファイティング原田に言ったことですが、「スタミナというのは君のトレーニングで養われるものではない、君の精神力だ」と。彼は又原田に「孤独に徹して自分一人の力で戦わなければいけないという気持になった時に初めて神様が与えてくれるのが人間のスタミナだ」と言ったそうです。スポーツの指導者はそういうことを選手にいうことが必要だと思う。又皆さまに申し上げたいことはこのような、選手に一番大切な言葉を簡単にすぱっというために言葉の研究をすることが、僕のスポーツ論です。一番初めに井上友一郎の言葉のことについて話し、はなはだ生理学的でない非科学的なことを言いましたが、やはり人間のやることですから、スポーツは哲学を持たなければならないと思う。その様なことについて今から申し上げます。皆さんは相当長い間、話しを聞き前に広田君のむずかしい生理学の話を聞き、この暑さの中なのでそうとうコンディションが悪いと思います。そこで皆さんに眠って下さい。その皆さんを眠らせないで私は、お話をすると、ここで一番勝負をしましょうと言いたい。かつてプロ野球の話しですが、プロ野球の新人研修講座をやって斯界の大家をつれて来てプロ野球の話をさせたのです。そうしたら大阪大学の整形外科の先生が背、腰、膝はどうしたら痛めるかというように投球をするのに一番大切なポイントのところの説明をしました。そうしたら一番前にいた選手がぐうぐう寝てしまったのです。それでかんかんに怒って一番大切なことを一生懸命話しているのになんだとものすごく憤慨しました。そこで僕はまことに困ったのですがあとで内村コミッショナーに大阪大学の先生が怒って困ったのですがと言ったら「しようがないよ」といわれました。選手の方も「グラウンドでいくらしぼられてもいいけれど、こういう所で机に長く座ってむずかしい話を聞かされるのはまったく苦手だ、先生には誠に申し訳けございません。」前の日に練習し、翌朝八時に起きて大阪大学に連れてこられて、むずかしい話を聞かされたのだから考え方によっては寝るのも無理はない訳けです。そうしたら内村さんも「君が東大の教授だと威張っているけれど、どんな良いことを言っても聞く方の人にそれを聞かせる技術を持っていなければ、猫に小判なので君が東大の教授だといって威張って、むずかしいことはいくらでも知識があるのだということをいくら見せびらかしても、聞く方の人がわからなければいくら話してもしょうがない。だから一つでも二つでも選手にわかる様に話をした方がよい一人もねかせないで話をしろ」といわれました。以後私は必ずこういうところに出て来るとねかせないで話をするということにしています。広田君の話を聞いてるとき寝ないで一生懸命聞いていたから今度はそう無理をしなくてもいいと思います。内村さんが、スポーツに一番必要なことは、

“The worst condition is and the best condition”

「最悪のコンディションは最良の状態にすることだ。」といわれました。スポーツにもそれがあると思います。しかし野球で何が必要かというと、二つのストライクの後にヒットを打てる人、2ストライクをとられてしまったら、来たボールをバットの芯に当てればいいんだという気になって、的がきちんと定まって腹が座ってくるわけです。だから今日も一番悪いコンディションで話を聞いて、日がたった時に、あの時は暑かったなど想い出す時に、神田先生があ



あいうことを言ったと暑いのと同時に想い浮かぶことが一つでもあれば感銘を受けたということになるのです。

スポーツということは、ワーストコンディションになった時に適切な行動が勝つのであると思う。ワーストコンディションがベストコンディションになるといっても生理学的にはワーストコンディションはワーストコンディションです。ワーストコンディションをベストコンディションにしなければならないこれがスポーツなのです井上友一郎が言った様に「自分がやらなければだめだ、というようになった時に初めて内に秘められている力、これを発揮するのがスタミナだ」というのです。スポーツはただ単なる身体運動ではないスポーツは人間がやるのだということを知ってもらいたい。人間の行動は単に身体運動という点から見れば体操は科学的思考の産物で、合理性を必要とするものであるから高い価値があるべきである。ところが、スポーツの方は人間の欲求に答える活動であるから誠に愛好される。そしてスポーツ活動の根底にあるものは勝負である。従って単なる球を投げるとか走るという身体運動としてではなく、又単なる身体運動ということだけではスポーツは理解出来ない。スポーツをやるということは健康のためなどではなくて、おもしろいから初めたのにすぎないのであって、合理性を必要とした体操のごとく理性的ではない。従ってスポーツ活動は衝動的、即ち生命的なものである。それであるからスポーツ技術の指導には、体操のごとく常に身体運動の合理性のみ強調することだけではどうしても充分ではない。スポーツはおもしろいというところから始まっているのだからおもしろいということをくずさないことである。

自分の経験からいってスポーツのコーチというのはどんなに理論的な正しさがあっても又彼自身スポーツに深い情熱があっても、それを受け入る側に興味を持たせるニューアンスがあるかどうかに問題がある。これがなければ練習をさせればさせる程いじけてくることを知らなければならない。コーチが一番注意することの一つである。やたらに猛練習をさせるというのではいけない。筋力トレーニングに関してヘッチンガーという人が3分の2の負荷をかければ良いかとかいろいろなことを言っていたずらに猛練習をすることをこの頃ではさけて、サイエンテックにやろうとしている。そういうことを生理学的に考えなくてもちゃんとやっていたと思う。飛田穂洲という野球の有名な人がいて、早大の野球部のコーチを六年やっていた、その人がいつもいっていたのですが早大は猛練習をする、猛練習をするというけれどその様なことはない。その時に、彼がいった言葉は、「人間は最善ということを考えるが、毎日毎日猛練習をやっていたらすりきれてしまう。最善を考えないで常に良い練習をするということで練習常善というのである。」常に良い練習をするということにしていたのである。もう一つ練習をすることで一番大切なことはくりかえしてやる。くりかえすということは非常につまらないことですから、どうして続けて行くかということ。それから練習をきちんとやること。どんな有名選手でもそれこそスポーツは不断の練習でたえざる練習です。スポーツの技術というものはどんなにうまい人でも忘れてしまうことがある。ゴルフのことは知らないのですが、ゴルフで有名な理論を説き、技術もうまかった、ヘーゲンという人がいた、そのヘーゲンの悩みという有名な言葉があって彼が理論的に解明した本を書いた。その翌日にスランプになって全然プレーが出来なくなって、そのスランプを脱するのに彼は練習という不可解なものを一年間繰り返さなければスランプから脱せなかったという有名な話がありますどんな理屈で言ってもこれは練習をしなければいけない。しかもこれを繰り返さなければならない、常善の練習をしていかなければいけないのです。〝ヘーゲンの悩み〟を小林秀雄さんは以下のように述べています。「ゴルファではなんといってもヘーゲンが一番の有名人である。その名人がある本屋から頼まれてゴルフの上達法という種類の本を書いた。実地経験から割り出した苦心の理論書は大切であったが当の名人の方は理論を完成した途端にまったく当らなくなったのである。ヘーゲンはその思いもかけなかったスランプから脱するのに一年もかかったそうだおおよそスポーツというものの魅力の中心にはヘーゲンの悩みがある。自分で通達した動作を分析してこれを理論付けてみるところはヘーゲンにとって愉快な仕事であったであろうが上機嫌で仕事を終ってみれば、いやでも肉体の体得した所はかならずしも、頭脳の理解するとこではないということをみせられる。両者は相違するというところではない、ほとんど敵対関係にあるということをヘーゲンは今更の様に感じたのであろう、ヘーゲンの永年の努力は肉体と頭脳との働きの一致に向けられたに相違ないが努力するものが肉体であるか頭脳であるかはんぜんとしないままにこれを練習と呼んでいたのであろう。彼は練習の結果この一致を会得して名人になったのであろうが、名人になってもその一致はいつでも紛失する危険にさらされていたのである。」次に、そして彼はスランプを脱するのに性質不明の練習以外に頼みになるものはなかったはずである。練習とは繰返しやらなければならない、おもしろくない練習を繰り返してやることは耐えられないことであり、これがスランプの原因となる。平常の練習をいかにやっていくかということ、その際に最善を出させようというところに無理がくるのではないか、問題は練習のやり方ということになるのですが、日本の場合はやたらと猛練習をする。これがやはり武士道的な考え方があり、それから宗教的な考えとしても肉体をさいなむということが非常に精神的なものになる。だからむやみやたらと猛練習をするのが無茶苦茶にへばらしてしまうということが、非常によいスポーツの練習法であるようになる。このあたりに何か問題がありスポーツを練習する指導のむずかしい所がある。スポーツによってどうなるかはよく解らないが、自発的なハードトレーニングが日本の特徴になる。この点も考えるべき所だと思う。たしかに私の経験から言って野球の選手というのは千本ノックという、のびる迄ノックをやらせる。あれをやらせる方がたしかに良い。ようするにはり

きっている時というのは、むやみに力が入って駄目なのです。へばってもうどうにでもなれという時に、本当に力を抜いてなるべく動かないでプレーするのです。要するに脱力が出来る状態になるということは猛練習をした時なのです。その状態が猛練習をしなくても力を抜くということ、筋肉の力を抜くということが出来れば良いのですが、あまり毎回毎回繰り返しやるのと、その様なやり方というのがまるで動物に芸を仕込んでいるのと同じで思考能力を零にした時に始めて動物的感覚となってうまくなって行くが、それをどうするかということになると全く駄目なのです。

スポーツというものは飽迄も情緒的なもので必ずしも科学的な思考の産物ではない、だからスポーツをやることはどうしてもおもしろいということがもとでここから始まらなければ駄目だと私は思う

さて、スポーツの名選手は生れるものか、作られるものかという論議があります。代表的な例としてベーブルースという人がいますこれはアメリカの野球の今日を築いた選手、ベーブルースというのはたしかに大選手です。それと並び称される人がタイカップという人です。彼も天才であるわけですが、野球選手のいろんな面から見て、理想像となればやはりタイカップだろうということです。タイカップというのは野球の選手として成功したものは何かというとそれは俗にいう「やる気」が非常にあったということです。ベーブルースは動物的なものを非常に持っていて、彼は一九三〇年コロンビア大学ウオタビーストキンクという生理学者が彼の身体の精密検査を行なって、視力、聴力、握力、脚力、神経の安定度、注意力こういうものが全部揃って理想的だというのです。普通の人は平均六〇点だとしたら彼は九〇点位のものをもっている。二〇〇万に一人位の身体的能力を持っている。それこそ天才だという。彼はものすごく視力がいいから彼がバットをふればボールが当たりホームランになってしまう。それでベーブルースを見たら生まれてくるもので作れるものではないと思います。ところがタイカップを見ると彼はマイナーリーグでさしたる者でもなく、一年目はいい成績を残こしていないがあの様な大選手になったこれは実に当人のやる気です。そこでやる気があるかないか、これがスポーツ選手の一番の問題点ではないか、それはやはり本当に好きかどうか、スポーツ指導者というのは本当にほれてほれ抜いた恋人にスポーツがなる様にプレヤーを育てることが大切です。ほれた女性ならば、あばたもえくぼに見え、スポーツが好きだとなったらそのためなら何んでもする様になるから、それを指導する時にその気持をくずさないことが非常に大切なことである。タイカップの自伝が翻訳で出ていますから一読されるとよいと思います。

それはサラリーマンに推センする百冊の図書の中の一つで何んでも一つやりとげようとする根性があるというのはああいう人だから何をやってもタイカップは成功したであろう。彼は、セミプロで試合にいって、ショート・オーバーのヒットを打った、その時のバットを通した、その感触が何ものにもかえがたいという、何物にもかえがたいショートオーバーのヒットを打ったバットを通しての快感が魅力で野球を選んだというのです。

スポーツ選手皆さんそうだと思う、どんなことがあっても、父親が怒ろうが先生が何をしようが、その魅力は忘れられない。ハンドボールだってボールを持ってゴールに投げ入れた瞬間あれは何物にもかえられないものだ。スポーツの指導はこの魅力を殺さない様にそれを教える又目覚めさせなければいけない。スポーツの指導には日本の場合にはあまりいろいろなむずかしい事をいいすぎる。コーチのいったことはよくやるが、しかし自分一人では何も出来ない日本の軍隊は教官のいうことはやるが、自分では何も出来ない。何か命令されたならばその通りはやるけれどそれ以上は何もやらないという様に、野球でいえば一塁までは出られるけれど一塁に出てしまったらどうにもならないという様に二塁に走って行っても監督がそばまで来て教えてくれなければ駄目だということになる。スポーツの指導というのは創造性を殺さない様にやらなければならない。あまりむずかしいことばかりいって折角ほれている者をスポイルしない様にしないことです。いい例は御承知のプロのボーリングで女性のプロボーラーを作ろうということを考えたわけです。その時に考えたことは全然ボーリングなどやったことのない女性の中から容姿端麗で運動神経の良い人、要するに運動能力テストをやって、体力診断テストとかいろんなものがあります。あれをやってものすごくいい点をとった女性を選んだのです。ボーリングは全然経験なし。ボーリングをやったことのある人だと変なくせがついていてよくないからなのです。理想的なスポーツをやるに向いている。しかもきれいな女性を選んで来てそれを合宿させて徹底的に練習させる。それでプロのボーラーを作ろうと考えたわけです。そうしたら本当にボーリングなんかのプロをやっている人達の間では、それはだめとなったのです。そういうサラリーマン的な給料をとること、人にいわれてやるのではそれだけのことしか出来ないのです。それが好きでなければプロはだめで、徹底的にそれが好きだということから始まらなければとてもやれないというのです。前述の方法の様なことでよければプロのボクサーというのは10ランド過ぎたら前に言ったスタミナがあるかないかというかなぐられても何回でもどんなに倒れても立ち上がる様でなければだめです。いい金をもらうとか何かといっていたのではだめで本当にそのスポーツが好きでなければだめだというのです。

要するに意欲、やる気というのが問題である。どうしてもやる気があるかないかということこらへんが一番問題になると思う。やる気ということで内村さんと以前話をして要するにやる気がある奴が成功するのだということになった。ここで問題が出て来る。やる気がないかあるかということで「シゴキ」の問題が関連して来るのです。この7月27日だと思ったのですが、オールスターゲームが終ってプロ野球が再び開かれて一番初めに阪急は近鉄から追いかけられているときです。一番大切な試合を西鉄とやって負けた。負けた時に西本監督は選手を集めてものす

ごく怒った。その時は選手に言ったことは何かというと「この中にやる気のない奴がいる。」ということを言ったというのです。プロ野球の奴でやる気のない奴がいるのかと思ったのですが、プロもアマも一番大切な処です。人間というのは前にもいった様に最善は無理なので、常にいいものを出そうと努力すること、これが一番大切な処で、やる気のない奴なんていやしない筈である。しかしやる気がない奴がもしいた時にどうするかということを内村さんとも話したのです。やる気のない奴は、ぶんなぐってもやらせなければいけないか、どうかと。やる気がないという話を内村さんが朝日新聞に書いているので諸君に紹介しますやる気「猛訓練又はしごきといったものをあえてスポーツと限らず全て一事に長ずるために必要かくべからざるものである。そしてレスリングやバレーボールが世界一となった時、八田主義とか大松式とか猛訓練が称賛された一方で、死のしごきといわれた、農大のワンゲル部の事件は世間の強い非難をあびた。両者の違いはどこにあるのかと、その違いの由来は訓練する側と訓練される側の両方に関係がある。第一に訓練する者はその道の経験者であり、ことに訓練される者の体力、技術、気力に応じた訓練の出来る人でなければ成功しない。何の経験もなく、又深い思慮もなくただ画一的に激しい訓練を課する様では危険である。第二は訓練を受ける側の問題であるが、私はなによりも「やる気」のある者でなければ大成は望めないと思う。技術や体力の上での素質も大切だがそれ以上に重要なのは「気力」という精神素質である。私自身若い頃、スポーツのコーチもかなりやったし又その人生の大方を、学生や若い学者の教育に従事したものだが、スポーツと学問と道は違っても、理屈は同じで、「やる気」のない者は大成しないということを繰り返し経験した。やる気を起こさせるのが教師やコーチの義務だという人もあり、それはたしかに一面の真理であるが、その道でもっとも成功した、人とは、コーチや教師からいわれてやる気をだしたようなものではない。やる気のない者を訓練することが最もむだな、最もこまることである。私の親しくしているスポーツ関係者で高校野球の若い監督として非常な成功をおさめたのがいる。私と彼とはまことに野球のことでは意見があうのだが、ある時一つのことで完全に意見が対立した。彼は場合によっては選手をなぐりつけなければだめだという。善意の暴力肯定論を主張したのに対し、私はなぐらなくてはだめなものは成功の望みはないものとしてあきらめてしまえという宿命論的の暴力否定論をとったからである。よく考えてみるとどちらにもそれぞれの理屈がある様だが、又この辺に「しごき」の是非の分岐点がある様に思われる。野球のコーチは一つのバランスのとれたチームを作らなければならないから中に二、三やる気のない者がいる時は何とかしてこれを他の者のレベルにまで高めなければならない。他に変るものがないとしたら、非常手段に訴えても何とかしなければならない。コーチに課せられた責任を思うとたしかに情状酌量の余地は十分である。これに比べると私の暴力否定論は無責任なものであるやる気のないものが数人もいるチームはどんなに皆んなが苦労しても所詮強くなるはずはない、初めからあきらめてしまえというのだから。私だったら、なぐらなければならない者はやめさせてしまい実際の技術は劣ってもやる気のある者を入れて訓練する方がずっと効果的であると思う。要するに「しごく」にない事である。本当に性根のある者は鍛えるし、そうでない者はしごかない事である。本当に性根のある者はそれこそ言葉通りに死ぬまでがんばってくれる。実に頼もしい限りである。しかしここで経験に富む名指導者は「しごき」のほどのよさを心得てその域を越えるようなことを決してやらない。いかに体力と気力とがそなわっていても、人間には限界があるし、個人差がある。このことをわきまえず鍛えるつもりで金の卵をつぶすことはないであろうか？よそながらはらはらして見ていることが二、三にとどまらない。例えば野球でいえばピッチングの場合である。何でも投げ込まさせるといった、鍛練法は投手に限って危険だと思う。良いピッチングに欠かせない肩と、肘との関係と筋肉とは非常にデリケートな構造をもっており、ことに不自然で複雑な運動を要する変化球を投げる場合、故障を起しやすい。なるべく変化球を少なくすること、これが投手の寿命をのばす最大の秘訣であろう。

　織田幹雄さんが、日紡のバレーの練習を見に行って選手をみて、よくもまあ運動神経の悪そうな女の子ばかりを集めて来たなと言ったというのである。身体を見たのではとうていスポーツにむくとは思えないと。だがやる気のある者だけを選んだのでベーブルスの様な素質のある者を選ぶということは無理なことで、意欲のあるタイカップの様な者をみつけてくるしかないのではないかということである。ベーブルスというのは天才であったというのは七十八回転のレコードに書いてあるラベールの字が読めたという、いかに動的刺激に対する目がいいかという例え話でしようが、ホームランこそ打ったけれども打率のアベレージからみればタイカップの方が良かったということ。しかし、彼ぐらいの身体的素質というのはアメリカの野球人にはいくらでもいるという事、要するにやる気とは何であるかというと、そのスポーツに惚れているかいないかということである。皆さんにお願いしたい事は、スポーツに惚れているのを殺さない様なこととスポーツというのは非常におもしろいということなのでそれを殺す様な言葉をいわない事である。皆さんが名コーチであるなら電話をかけてこういうことと、こういう事をやれというのを指示できる様に言葉を洗練しておくこと。選手の方が理解出来る様な会話が電話で出来たら非常に優秀である。おそらく皆さん電話では詳細はグラウンドに行ってからということになるでしょう。スポーツには限らないと思う。電話で話してむずかしい話になった時いずれ詳細はおあいしてからということになる。そうでなくてぱっといい言葉でそれこそ電話で意を伝えられる様な言葉の研究をしておかなければならない。いい言葉できちんと伝える。さっきも述べた様に理屈ではなくてよく解る様ないい言葉をいわなければいけないのではないか。アメリカのコーチ

ングコースの課程の中にザ・ランゲェージというのがある。母国語のこと、日本で言えば日本語である。正しい日本語を言わなければ自分の意を伝えられない。又コーチは顔でこわい顔をしているということではなく理想の名コーチとは背中でものを言わせるので、後を向いた時に、あっと選手が解るということで、前はいくらでも演出が出来る。それから、どうなる事も出来る。しかし背中は正直だから背中が正しいことがいえる。コーチの背中を見た時に選手が発奮する様にしなければいけない正しい事を正しく伝える。プレーヤーをどうしても自覚に導くための指導には言葉を活用する余地があるのではないかと考える。自覚を持たせる様にコーチをするには言葉の魅力が実に大きな役割を持っている。したがって自主的教育が唱道されている現在、スポーツ指導の根本課題としても、言葉の問題をとり上げる必要があると思う。言葉は号令や命令と違って実に繊細微妙である。言葉の働きには、詩と科学によって代表される様に暗示的なものと指示的なものとがある。この様な変化に富み・深さのある心と心の交渉の上に大切な役割をしてくれる言葉を働かせることによって初めて感激してスポーツをやらせることができるさっきから述べている様に動物に芸を教えるのではない、言葉で正しく指示してそれをやらせることができる。スポーツのコーチは理屈でいくるめてもだめなので、それを実際のプレーでやらなければならないのだから、いい言葉で適切なこと、簡単で相手の心をゆり動かす様に言葉をいうこと。ところがどうもスポーツのコーチをすると、やたらと、しった激励して録音をしたらなにがなんだかわからない様なことではだめである。「グラウンドで毎日、投げかけている言葉には明るい言葉、楽しい言葉、威圧的な言葉から、罵詈雑言にいたるまで実に多種多用であるが、コーチが特に警戒しなければいけない、不要な言葉を決して使わないようにすることである。ひびきの薄い言葉を数多く使用する事は、教室でも避けなければならないことであるが、特にグラウンドでは絶対に戒めなければならない。その場合練習がより発展して行くためには、有用な言葉を最小限に節約して出すという事は真剣に考えておかなければならないと思う。そのためには練習場試合場においてプレーヤーの心中に希望がわき、落ちつきを生み、積極的な意欲を盛り上らせる様な言葉の研究をしなければと思いたってその資料、まず古今の名監督、名選手の今日まで語り伝えられている、金言名句を調べてみることにした。その名言の生まれた経過を調べてみると、必ずといってよいほど当時の心境がその主題となっているのである。それは野球のようなデリケートな点が勝負の分岐となるスポーツにあっては微妙な心理作用が思わぬ波乱を巻き起こす原因となるからであろう。」そこでどの様な名言があるかを研究したのだがここではやめる。高等学校の部訓というのを全国の高校にアンケートを出し三百位来たのでそれを皆様に紹介します。あまり画一的なものはどうかと思うのだが、アメリカの野球選手が言っている様に、英雄になるか、ばか者になるか即ちファールを打つか、ヒットを打つかの違いで本当はこのような話の方が面白いのですが、日本の高校は飛田穂州という人がいった事を皆んなとっているのです。それを紹介して終りにします。

「部訓」スピリットが多い。

最後まで気を抜くな、むだな動き、むだな考えをするな、スポーツマンシップの日常化、苦しい時は相手も苦しいのだ、平常の努力なくして栄冠はない、試合は常にベストコンディションで、生活を規則正しくせよ、チームの一員である事を忘れるな、甲子園の七万の目の壁をつら抜く斗魂に燃えよ和、まじめな態度、モットーに忠実であれ、生活と練習は昨日より充実していたか、スポーツマンとしての名誉の誇り、常に気力を充実せよ、猛練習あるのみ、苦しい時は敗戦の時を想え、斗志、根性、努力、これが部訓でだいたいこんなところである。

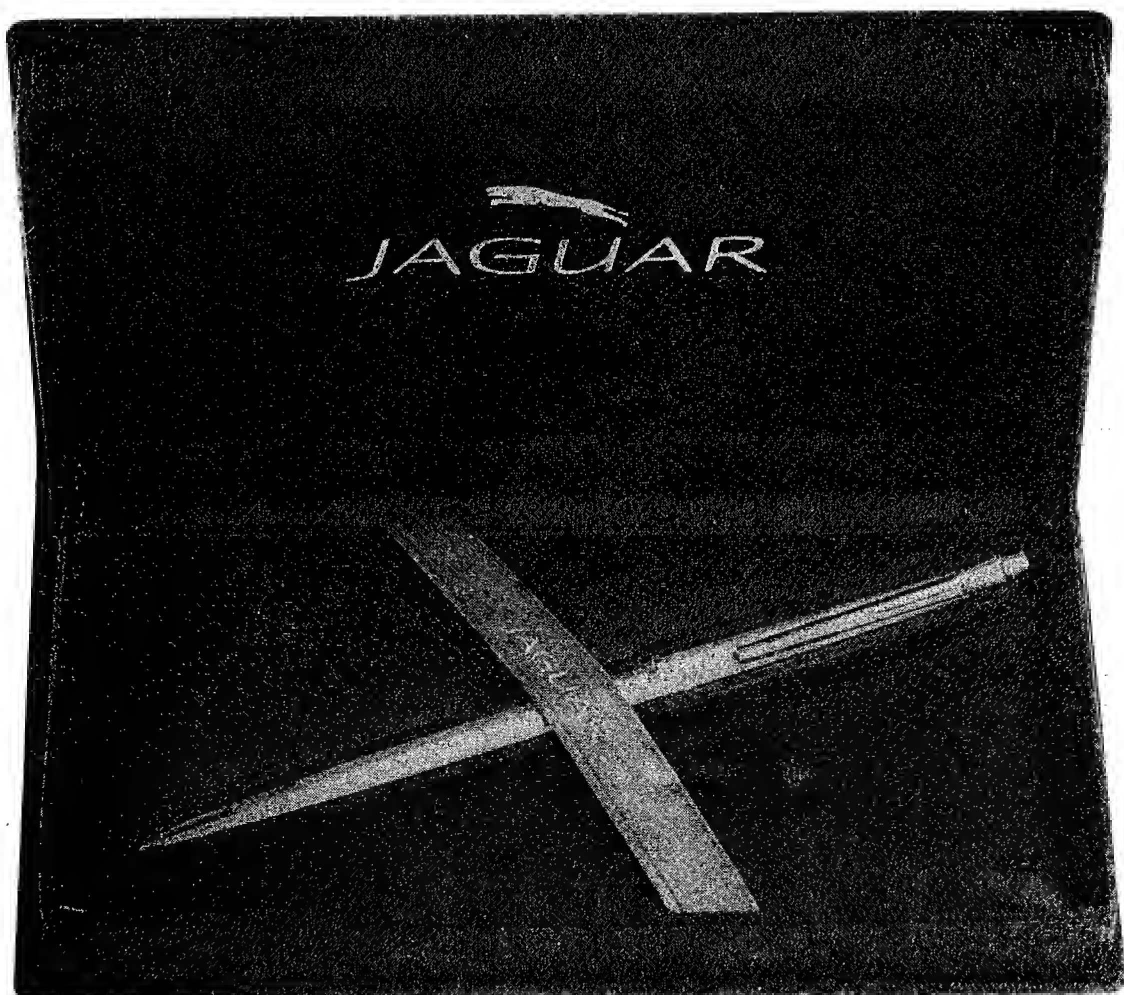
「モットー」グラウンドは道場、人間を作る判断をあやまるな、全力をつくせ一投一打をゆるがせにするな、怠惰と放縦を戒め明朗で自覚せよ、視力の養成、頭悩鋭敏、大胆、沈着熱心、正確と迅速、静かな斗志、斗志なき者は去れ、汗と涙なき勝利はない、無心で球に向う、ゆっくり堅実に、克己、而して勝て、根性を作れ、明るく伸び伸び楽しい野球、それから飛田さんの野球なのでしょうが、球道、究道、求道全人的生活の道をきわめよ、だいたい皆さん同じようなことだが、要するにもう少し研究してやったらいいのではないかと思う。私がこういうことをのべたのはアメリカの名監督でビリー・サウスワースという立派な人でこの人が言った言葉を最後に紹介します。彼は彼が監督に就任した時に選手に言った言葉で

「私は選手時代に監督の選手に対するあつかい方についてああして欲しい、こうして欲しいといろいろ考えていた事だが、今日私自身が監督になるに当ってその当時の自分の気持を考えてやって行きたいと思っている。」と言うのです。やはりこういう事が必要でないかと思います。ベーブルースが天才だといったのですけれどベーブルースが最後に引退する前に野球の選手としての終りは何かと言ったら「ベースパス、要するに走路が坂道に見えて来たら終りだ」と彼が言って彼が「打つことなら負けないけれど走るのがだめになった、足がおとろえて来た」といったというのです。これも名言だと思います。

いろいろ言われている中にはっと心を打たれる事があるものですしかしその人間の微妙な心理をつかんだいい言葉はいかにしてうまく言うかということ、これがコーチをやる一番大切な事ではないか山本五十六元師が航空隊の訓練をものすごくやって航空母艦に帰って来るのは飛行機は非常にむづかしいのです。その訓練をやって、操縦士の指導者に言った言葉で

「やって見せて、言って聞かせてさせてみて、ほめてやらなければ人は動かない。」といった。軍隊という所はだいたい文句ばかり言っているのだが、悪い事ばかり指摘し、ほめるという事はないのです。スポーツのコーチの下手、欠点は誰れでもある、だから下手な者のいい所を見つけてほめてやるこれは非常にむづかしいと思う。

◇　◇　◇



精かんなきみから
精かんな　かれへ**贈りものはジャガー**

胸から出す、ノックする、書く………
三菱ボールペン《ジャガー》は、すべてに
スキがありません。
スマートなデザイン、軽快なキャップ
スライド、ムラのない書き味《ジャガー》
は、行動的な若いあなたに、ぴったりです

精悍なヤツ――――

ジャガー

三菱ボールペン

¥2000・¥1000・¥800・¥500

本誌恒例

昭和44年度 重大ニュース

① 全日本男子世界選手権へ（45年2月）

1972年度のミュンヘンオリンピックの出場権をかけた第7回世界選手権はフランスで行なわれ田村団長、村田監督以下16名の選手団が遠征。悲願のベストエイト入りはのがしたものの世界のトップレベルに伍す力を示した。

② 積極的だった頂点強化対策

・全日本男子欧州合宿（5・6月）
・タシマイダン杯で3位（7月）
・国内サーキット実施（9月）

懸案の世界選手権で上位入りを果すため、頂点強化には、特に力が入れられ、欧州遠征、8次に亘る国内合宿が行なわれ、欧州一流国にヒケをとらないチーム力に成長することができた。

③ 大洋デパート全国4大タイトル独占

大洋デパートは全日本総合（8月）、国民体育大会（10月）、全日本選抜（12月）、全日本実業団（2月）の4大タイトルを独占し愛知紡（36）、田村紡（42）に続いて、三度目の偉業をなしとげた。

④ 下関中央工、全日本高校2連勝（8月）、国民体育大会高校の部（10月）で優勝

昨年度インターハイ優勝の下関中央工は今年はメンバーが変わり苦しんだが見事二冠を獲得、一方高校女子の部では新居浜市商がインターハイ、国体の二冠を獲得している。

⑤ 日体大男子の学生界全タイトル獲得と韓国遠征（7月）

日体大男子は昨年より、快調に学生陣を相手に勝ち、春秋の関東リーグ、韓国遠征決定戦、全日本学生選手権に優勝。韓国遠征では悪条件の中、4勝2敗の戦績を残した。

⑥ 日本協会合議制から再び理事長制へ（9月）

44年3月に発足した合議制は内外の批判を受け、9月に再び理事長制がしかれ、荒川理事長が再選された。

⑦ 日韓高校交歓スポーツ大会開く（8月）

ここのところ毎年開かれている同大会は駒沢に朝鮮大附高を迎え開かれ、一分一敗の成績だった。

⑧ 高体連ハンドボール部創立20周年（8月）

高体連ハンドボール部は創立20周年を迎え、インターハイ会場で表彰・展示を含む式典を行ない、記念誌を発行した。

⑨ 東女体大全日本学生で初優勝 日体大の連勝記録は86でストップ（11月）

東女体大は念願の初優勝を果し日体大の昭和37年以来の連勝記録はおわった。

⑩ 初の全国自衛隊選抜大会開く（6月）

東京に12チームが集り、初大会が開かれた。

【その他】▽学生女子東西対抗始まる（9月）

海外トピックス

地元ポーランドが優勝
—ワルシャワ国際—

世界選手権前の今シーズンヨーロッパにおける最後のビッグトーナメントとして注目されたワルシャワ国際リーグは、1月27日から3日間4ケ国が参加して行われ、地元ポーランドとノルウェーが同率となったが、両者の対戦で勝ち点をあげたポーランドの優勝と決まった。

ノルウェー	19（10−6 9−8）14	チェコ新人
ポーランド	19（12−8 7−8）16	ルーマニア
ルーマニア	26（11−7 15−8）15	チェコ新人
ポーランド	12（5−1 7−9）10	ノルウェー
ノルウェー	17（12−9 5−5）14	ルーマニア
チェコ新人	18（11−6 7−7）13	ポーランド

【順位】①ポーランド2勝1敗②ノルウェー2勝1敗③ルーマニア1勝2敗④チェコ新人1勝2敗

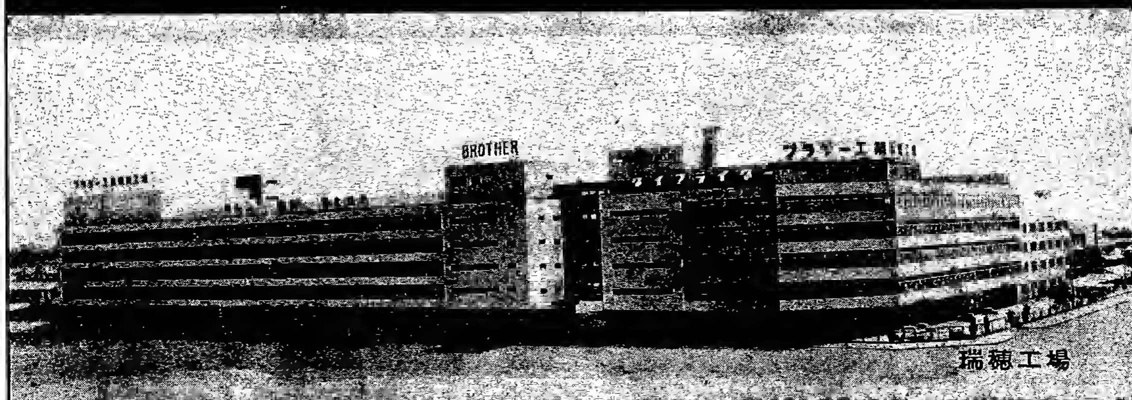
この大会の得点王はチェコの新星。クレピンドルが21点をあげ話題となった。このほか得点5傑にはグルイア、グネス（ともにルーマニア）、ザワダ（ポーランド）、グラベル（ノルウェー）が並んだ

〃〃〃〃〃〃〃

下関中央工ら受賞

今年度全日本高校、国体高校の二冠を得た下関中央工（山口）は中国新聞制定の中国スポーツ賞を受賞、また全日本の4大タイトルを独占した大洋デパート（熊本）は、さきの読売日本スポーツ賞部門賞についで、このほど西日本新聞社制定の西日本スポーツ賞を贈られた。

「ミシンメーカー」から
「各種機器の総合メーカー」へ



瑞穂工場

ブラザーはミシンの技術を母胎に新製品の開発に努め、多角化を進めてまいりました。

現在ブラザーには、ミシン、編機、事務機、家庭電器、工作機、楽器の6つの部門がありますが、いずれもその優れた品質で、世界の市場をリードしております。

ブラザーはこの成果に甘んじることなく、さらに自社技術の開発と取り組み、各種機器の総合メーカーとして一段と飛躍すべく胎動を始めております。

BROTHER
ブラザー


ブラザー工業株式会社
本社 名古屋市瑞穂区堀田通9の35
TEL(811)2511大代表



部長就任ご挨拶

徳永陸繁

全国高体連ハンドボール部が発足して早くも二十年過ぎ、この間、初代部長河島武四郎先生、菅是敬先生、そうして今度公務のご都合により児玉九十先生のご退任は誠に時の流れとは云え、高校体育が大きな曲りかどにきているだけに残念なことであります。

はからずも、今度不肖私がその後任として皆様のご支援のもとに推挙されましたことは、感謝にたえぬところでございます。今後のこの大任に対しましては重責ではありますが、今日まで奉仕的な努力のもとに築かれた諸先輩の二十年の尊い歴史の基盤と、一層教育的な観点に立って、主体性の確立につとめたいと存じます。

特に最近、学校体育と社会体育との関連が極めて微妙なものとなっており、この発想の動機はともかく、高校スポーツが、クラブ活動またはその自然的な発展であるかぎり、どこまでも教育的な配慮のもとに行はれねばならず、従って学校教育の一環ではなかろうかと信じます、何よりもスポーツを愛好する師弟一如の努力のもとに建設された全高体連ハンドボール部の歩みだけに私共は現実に則した正しい学校教育のあり方を追求し、一層この高校ハンドボール界の質的向上と量的な拡大につとめることが責任ではないかと存じます。

多角的にご協力の程、部長就任にあたってよろしくお願い申し上げ、以上ご挨拶と致します。

徳永陸繁新部長の略歴

▼大正六年九月七日生れ、五二才
▼日本体育大学卒業
▼福岡県朝倉郡朝倉町出身
▼現職、都立世田谷工業高校教諭
従来の主な役職
昭和16　全日本学生ハンドボール連盟委員
昭和21〜43（二十五年間）日本ハンドボール協会常務理事
昭和24〜45（二十二年間）全国高等学校体育連盟ハンドボール部副部長
昭和21〜45（二十五年現在に至る）東京都高体連ハンドボール部副部長

戦前は学生の第一戦選手として活躍、戦後も国民体育大会をはじめとして、各種の大会で活躍し、その後、審判コーチとして、後進の指導にあった。

全国中学校指導者講習会開催の検討

全日本教職員連盟では、12月17日、静岡県修善寺に山田理事長以下16名の理事が集り、理事会を開き、44年の総括、45年の方針を審議した。内容は一、45年度全日本教職員選手権大会の開催地について、一、全国中学校指導者講習会開催、一、連盟運営事業の基本方針一、研修会の持ち方、研究調査の強化などであった。

特に中学校指導者講習会は重要な問題であるので、協会と十分な協調をはかる。文部省の後援を受けられるように協力を依頼するなどの方針が決定された。

東海学連新役員決まる

東海学生連盟は昭和45年度新役員を次のように決め発表した。

また今年の春秋リーグ戦は春が4月25日から5月3日までの5日間、秋が10月17日から11月7日までの5日間で、それぞれ一日だけ室内（愛知県体育館）を使用する予定。なお今シーズンから女子に愛知教育大が新加盟する。

【役員】▽会長　梅村清明（中京大学々長）▽理事長　藤松博（名工大OB）▽審判部長　宇津野年一（日体大OB）▽委員長　梶川佳孝（中京大）▽副委員長　矢崎正一（名古屋大）、細井孝徳（中京大）▽会計　小林広明（名城大）

中四国学連役員も

中四国学生連盟の昭和45年度役員は次のとおり決まった。

▽会長　秋山政彦▽理事長　藤田信義▽委員長　木村洋一（松山商大）

長野協会理事長に佐藤氏

長野県協会は新役員を次のとおり決め発表した。なお事務局が「長野県佐久市大字岩村田991、北佐久農高内　電・佐久(7)四〇一〇」に移転した。

【役員】▽会長　戸塚一（県会議員）▽副会長　木下秀男、白石国男▽理事長　佐藤甲子勝（北佐久農高教諭）▽事務担当理事　小田川利男、加藤雅之

高体連新部長に徳永陸繁氏

全国高体連ハンドボール部全国委員会は1月31日東京岸体育会館で開かれ、児玉九十部長（明星学園学長）の辞任を承認した後、ただちに新部長の選出を行った結果副部長徳永陸繁氏（日体大出、都立世田谷工高教諭）の昇格を推せん多数で決定した。児玉前部長は昭和40年からこのポストをつとめられていたが学園業務の多忙でかねてから辞意をもらされていたもの。

全国高体連ハンドボール部長は河島武四郎氏（昭25～昭32）、菅是敬氏（昭33～昭39）、児玉氏（昭40～昭44）に次いで徳永氏は4代目にあたるが、競技出身者からの選出は初めてのことであり、新部長の手腕に大きな期待がかけられている（抱負・写真・略歴は別掲）徳永氏の昇格によって空席となった副部長（東日本地区選出）は清水正氏（山梨）に内定した。

このほか同委では、今年度全日本高校選手権の大会申し込み〆切日を7月2日に決めたほか、第3回日韓高校交歓スポーツ競技会のハンドボール種目に女子を加えることを承認、韓国側の要請があれば今夏は男女の代表を送ることになった。

（注）韓国協会は日韓高校交歓競技会で女子が実施不可能な場合は今秋10月下旬の10日間、日本の高校女子チームを韓国へ招待、4～5試合を行いたいと日本協会へ正式文書を寄せた。韓国側は単独チームの来征を希望している。

実連理事長は田中氏再選

全日本実連理事会は2月8日名古屋で開かれ、理事長に田中滋章氏（タヨシ産業、名大出、33才）を再選した。また副理事長も平出一氏（日進商会）が引きつづき勤めることに決まった。

また、規約の一部改正を行い「役員の任期を一年（現行は二年）」「理事長は理事の互選による」とした。第11回全日本実業団選手権の開催地は、この会議では決まらぬままとなり、男子の競技方法も今年（第10回＝別掲）試みた上位8チームによるリーグ戦と、その他のチームによるトーナメントに分けて行う方法を継続するかどうか結論を得なかった。なお、事務局所在地が名古屋市千種区豊年町3の37、タヨシ産業内に変更された。

岐阜を皮切りに4試合

第2回全日本サーキット

日本協会は、全日本チームの第2回国内転戦として世界選手権の帰国報告を兼ね次の4試合を行うことを内定した。▽3月30日（18時・岐阜）▽4月1日（神戸中央体育館）▽2日（18時・大阪府立体育館）▽3日（18時・京都市立体育館）（注）岡山で一試合追加される場合もある。

全日本学生ハンドボール連盟規約（全文）

全日本学生連盟は本誌既報のとおり昨年12月の代表者会議で規約を大巾に改正した。

新規約による役員の選出は3月中に各地域学連で行われ、4月に初会合のあと学連新執行部を決定する予定。

○……第1章　総則……○

第1条　本連盟は全日本学生ハンドボール連盟と称する。

第2条　本連盟は東北北海道、関東、北陸信越、東海、関西、中国四国、九州の各地域連盟で組織し地域の範囲については総合役員会の承認によって決める。

第3条　本連盟の事務局を東京都渋谷区神南一丁目一の一日本ハンドボール協会内に置く

○…第2章　目的と事業…○

第4条　本連盟は日本各地区の学生ハンドボール団体の総合機関として学生スポーツ精神を通じハンドボールの普及と発展とを目的とする。

第5条　本連盟は前条の目的を達成するため日本ハンドボール協会と協力して左の事業を行う。

一、全日本学生ハンドボール選手権の開催
一、全日本学生選抜東西対抗ハンドボール試合の開催
一、その他競技会の開催
一、国際学生競技会の開催及び代表選手団の派遣
一、学生ハンドボールに関する調査と研究
一、学生ハンドボールの指導奨励
一、その他本連盟の目的達成に必要な事業

○…第3章　役員…○

第6条　本連盟には次の役員を置く

一、会　長　　一　名
一、副会長　　若干名
一、顧　問　　若干名
一、参　与　　若干名
一、理事長　　一　名
一、理　事　第10条に定めた数
一、委員長　　一　名
一、副委員長　若干名
一、委　員　第12条に定めた数

第7条　役員の任期は一年間とし再任を妨げない

第8条　会長は総合役員会において推せんし、本連盟に関する一切の事柄について統括し、本連盟を代表するとともに総合役員会を招集し、その議長となる。

第9条　副会長は総合役員会において推せんし、会長を補佐し会長事故ある時はその職務を代行する

第10条　理事は第2条に定めた各地域連盟から一名を選出する外会長は地域連盟の数を越えない範囲で理事を委嘱することができる

第11条　理事長は理事会により選出され、会長の指示を受け会務を総理する。理事長は委員会に出席することができる

第12条　委員は第2条に定めた各地域連盟より各二名を選出するほか、地域連盟において加盟校10校に対し一名を選出する。

第13条　委員長は委員の互選による。委員長は委員会を招集しその議長となる。

第14条　副委員長は委員の互選に

より選出し、委員長を補佐し委員長事故ある時はその職務を代行する

第15条　理事は本連盟加盟校の出身者、委員は本連盟加盟校の学生でなくてはならない。

○…第4章　会議…○

第16条　本連盟には左の会議を置く

一、総合役員会
一、理事会
一、委員会

第17条　総合役員会は本連盟の最高議決機関とし、総合役員会に討議される事項は次のとおり

一、事業計画
一、国際競技会代表の承認
一、予算の審議
一、決算の承認
一、規約の改廃
一、役員の承認または決定
一、その他の重要なる事項

第18条　本連盟の定例総合役員会は毎年2回とし全日本学生ハンドボール選手権の前日と、年度末に理事長が招集して開催する

会長が必要と認めた時または理事会の過半数以上の請求があった時は会長はそのつど臨時総合役員会を招集できる。

第19条　委員会は総合役員会の議決にもとずき理事会とともに本連盟の運営にあたる

第20条　本連盟の定例委員会は定例総合役員会の開かれる前の24時間以内に委員長が招集して開催する

第21条　本連盟の臨時委員会は、臨時総合役員会の開かれる前の24時間以内に委員長が招集して開くことができる

第22条　本連盟の会議を招集する時は少なくとも会議の日より15日前に議題、日時、場所を各役員に通知しなければならない。

ただし、緊急の場合はこの限りではない。

第23条　会議は過半数の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数の同意を経て決定する。

ただし、可否同数の場合は議長がこれを決定する

第24条　本連盟の会議に出席できない場合は他の役員に議決権を渡すことができる。この場合、委任した役員は出席したものとみなす。

○…第5章　登録…○

第25条　一、本連盟の加盟校は各年度定められた期日までに各地域連盟に登録された学校及び選手とする。ただし特別の事情ある時は総合役員会の承認を得て期日後の登録を認める。

各地域連盟は各年度定められた期日までに本連盟に必要な手続きを完了する。

第26条　登録のない学校、選手は本連盟の主催する競技会に参加することはできず、国際競技会などの代表になることもできない。

第27条　選手の登録は同一学部につき4回（入学時から4ヶ年間のみ）まで認められる。ただし同一学部4回のみで例え回数が残っていても転校による再登録は認めない。医学部学生については6ヶ年を適応する

○…第6章　会計…○

第28条　本連盟の経費は次の収入をもって当てる

一、加盟金（登録金）
一、寄附金
一、その他の収入

第29条　本連盟の加盟金（登録金）は総合役員会において決する。

第30条　本連盟の資産は理事のなかから選出された会計理事と委員のなかから選出された会計委員によって保管される。

第31条　本連盟の予算は総合役員会において決定され、会計は総合役員会において決算報告とその承認を得なければならない。

第32条　本連盟の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終了とする

○…第7章　事務局…○

第33条　理事長は理事、委員、職員などをもって事務局を構成し本連盟の事務執行の責任を負う

第34条　本連盟は事務処理のため職員をおくことができる

○…第8章　附則…○

第35条　本連盟の名誉を　損し、または本連盟の規約及び決定にしたがわない加盟校または地域連盟は理事会の議決により試合出場停止または除名に附せられる。

第36条　本規約改正及び附加は理事数の過半数の賛成を必要とする。

第37条　本規約の運営に必要なる事項の細部については理事会の議決を経て別に細則を決めることができる。

第38条　第1章第2条の地域連盟の範囲は次のとおりとする。

（東北北海道）北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
（関東）東京、千葉、神奈川、埼玉、茨城、栃木、群馬、山梨
（北陸信越）石川、富山、福井、長野、新潟
（東海）愛知、静岡、岐阜、三重、滋賀
（関西）大阪、京都、兵庫、奈良、和歌山
（中国四国）広島、山口、岡山、島根、鳥取、愛媛、香川、高知、徳島
（九州）福岡、大分、長崎、佐賀、宮崎、鹿児島、熊本、沖縄

第39条　本規約は昭和44年12月22日より施行する。

協定事項

【会長並びに委員長選出の協定】

昭和38年9月の会議で左記の協定事項が存在している。

第1項　事務局所在地との関連において本連盟の円滑な運営を図るため会長は関東学生ハンドボール連盟会長を、委員長は関東学生ハンドボール連盟委員長をあてるものとする（注・理事長は第11条による）

なお、関東学生ハンドボール連盟会長、同委員長が交代した時は処理後はじめて総合役員会で承認をうけるものとする。

第2項　前項の協定は恒久的な効力をもつものではなく総合役員会でいつでも改廃できる。

【大会運営上の協定】

協定日時不明ながら左記の協定も存在している（一部昭和44年11月改正）

第1項　全日本学生選抜東西対抗ハンドボール試合の円滑な運営のため東北北海道、関東、北陸信越を「東日本」、東海、関西中国四国、九州を「西日本」とする。

第2項　全日本学生選抜東西対抗ハンドボール試合に選出された学校、選手の遠征経費については各地域連盟に一任し、全日本学生ハンドボール連盟及び主管連盟は一切負担しない。

住友化学菊本が初優勝

西日本一般男子選手権

第9回西日本一般男子選手権は1月24、25日松山市・松山商大球技場に西日本4地域の代表と地元代表それに前回優勝の大阪イーグルスなど10チームが参加して開かれた。

大きな波乱もなく、ベストフォアには順当な顔ぶれが進み、決勝は6連勝を狙う大阪イーグルスと住友化学菊本（愛媛）の対戦となった。

全日本実業団選手権を控えて上り調子の住化は、前半から速い動きで試合の主導権を握り、後半もイーグルスの追撃を巧みに封じて快勝、初優勝を飾った。

この大会で実業団チームが優勝したのは初めて。

▽1回戦

全倉敷（中国・岡山） 27（16－11、11－13）24 大分教員（九州・大分）

徳山ク（中国・山口） 24（9－10、15－4）14 住友金属（近畿・和歌山）

▽準々決勝

高松ク（四国・香川） 19（8－10、11－6）16 愛媛教員（愛媛）

長崎教員（九州・長崎） 23（14－7、9－3）10 坂出常盤ク（四国・香川）

大阪イーグルス（大阪） 35（24－8、11－5）13 全倉敷

住化菊本（愛媛） 24（10－6、14－5）11 徳山ク

▽準決勝

大阪イーグルス 24（12－8、12－7）15 高松ク

住友化学菊本 20（2－5、8－5）10 長崎教員

▽決勝

住友化学菊本 19（10－8、9－6）14 大阪イーグルス

得	【住化】		【大阪】	得
0	季　原	GK	島　崎	0
0	成　行	GK	広　川	0
1	神代	FP	井上	2
3	伊藤	FP	松尾	1
5	加藤	FP	青木	2
3	落海	FP	北岡	5
6	白石	FP	奥浜	0
1	金剛	FP	福井	2
0	平野	FP	樫塚	2
0	松井	FP	木村	0
0	長嶺			
0	北　山			
19	（1）	7MT	（1）	14

（審・日野 河本）

中部工大が沖縄で合宿

中部工大（愛知・東海学連）は昨年12月16日から10日間沖縄で初の合宿を行い来シーズンの決意を新たにしたが、期間中、地元チームと4試合を交え3勝1敗の成績だった。

中部工大 25（14－9、11－4）13 琉球大

中部工大 15（6－5、9－4）9 沖縄大

中部工大 18（8－5、10－5）10 沖縄高校選抜

全沖縄 17（6－6、11－8）14 中部工大

得	【沖縄】		【中部】	得
0	儀　間	GK	平　松	0
0	大　気	GK	杉　浦	0
6	外　間	FP	中　野	2
4	宮　城	FP	岩　田	3
2	金　城	FP	松　岡	0
2	新　里	FP	馬　渕	0
0	又　吉	FP	村　島	4
0	新　垣	FP	越　智	4
3	知　念	FP	鷲　見	1
0	大城光	FP	榊　原	0
			早　川	0
			前　田	0
17				14

中部工大・山崎正利監督の話　今春から一部へ昇格することになったし気分一新のため沖縄へ出かけてみた。

沖縄球界の人たちの理解で、気持ちのよい合宿ができた。

沖縄のレベルもシーズン毎にあがっているようで関係者は非常に熱心だ。

全沖縄の外間（ほかま）選手は去年まで三景で活躍した選手。九州学生で2位に進出した琉球大はバスケットボール的なプレーが軸だった。

おわび

本誌72号13頁高校優秀選手男子に中出明（大阪・枚方高3年）選手の名がぬけていました。深くおわびいたします。

各地の記録

仙台大が初の栄冠

全和洋は3年連続優勝

第6回東北総合室内選手権は1月24、25の両日山形県営体育館に男子10、女子9チームが参加して行われた。

男子は仙台大（宮城）、岩手教員が地力を示して決勝に進み、進境を示す仙台大が前半のリードを守り切って強豪・岩手教員を降し初優勝を遂げた。宮城代表の優勝は3年ぶり。準々決勝で仙台大を苦戦におしやった湯沢高（秋田）の健斗が光った。

女子は予想どおり全和洋（秋田）と宗形製作所（福島）の決勝となり攻守に安定した力を持つ全和洋が制勝、3年連続の栄冠を握った。

▽男子1回戦

下北手ク（秋田） 16（9－4、7－5）9 岩瀬農高（福島）

仙台大（宮城） 20（6－8、14－2）10 大石田高（山形）

▽同準々決勝

東根工（山形） 27（13－7、14－2）9 青森商（青森）

盛岡商高（岩手） 16（1－1、1－0、6－9、8－5）15 福島大（福島）

仙台大 14（11－7、3－6）13 湯沢高（秋田）

岩手教員（岩手） 24（13－6、11－3）9 下北手ク

▽同準決勝

岩手教員 22（11－1、11－5）6 東根工

仙台大 14（11－7、3－6）13 盛岡商

▽同決勝

仙台大 16（10－10、6－4）14 岩手教員

▽女子1回戦

宮三女OG（宮城） 9（7－3、2－5）8 小高農高（福島）

▽同準々決勝

米沢女高（山形） 8（5－3、3－1）4 岩手女高（岩手）

六郷高（秋田） 7（3－2、4－1）3 竹田女高（山形）

宗形製作所（福島） 6（2－1、4－1）2 花巻高（岩手）

全和洋（秋田） 20（10－2、10－1）3 宮三女OG

▽同準決勝

全和洋 13（5－0、8－2）2 米沢女高

宗形製作所 10（5－1、5－0）1 六郷高

▽同決勝

全和洋 14（7－3、7－2）5 宗形製作所

イーグルス、宗形おさえる

女子はスターズが連勝

第11回大阪総合室内選手権は1月10日から4日間大阪府立体育会館と市立体育館を会場に男子24、女子4チームが参加して開かれた。

男子は3連勝を狙う寝屋川クを準々決勝で降した大阪イーグルスが、決勝でも宗形製作所の追撃を巧みにかわして3年ぶり5度目の

優勝を飾った。
　女子は大阪スターズが地力を示して連勝。

▽男子準々決勝
雪陵ク 15（6—10, 9—4）14 全大阪大
大阪イーグルス 22（10—10, 12—11）21 寝屋川ク
宗形製作所 17（6—9, 11—4）13 大体大ク
松ケ枝ク 棄権 THク

▽同準決勝
大阪イーグルス 22（10—3, 12—11）14 雪陵ク
宗形製作所 25（13—5, 12—6）11 松ケ枝ク

▽同決勝
大阪イーグルス 23（15—10, 8—10）20 宗形製作所

▽女子準決勝（＝1回戦）
大阪スターズ 11（4—4, 7—2）6 寝屋川ク
大谷ク 10（7—3, 0—4 : 2—0, 1—0）7 大体大ク

▽同決勝
大阪スターズ 7（3—1, 4—2）3 大谷ク

男子は明善クが優勝

▼第16回福岡県室内選手権（1月 小倉体育館）

▽男子準々決勝
博送ク 14—13 香椎ク
若松ク 19—17 小倉工OB
福岡教大 24—15 愛球会
西南ク 22—17 宗像ク

▽同準決勝
若松ク 13—12 博送ク
西南ク 17—13 福岡教大

▽同決勝
西南ク 18—10 若松ク

▽女子準決勝（＝1回戦）
明善ク 13—4 筑紫女園ク
古賀ク 8—7 福岡女ク

▽同決勝
明善ク 20—4 古賀ク

三春台ク、日本発条を破る

▼神奈川県室内選手権（1月・横浜）

▽一般男子準々決勝
神奈川教員団 23—17 法二ク
日本発条 20—10 法工ク
セントラル自動車 17—10 相友ク
三春台ク 24—10 KKC

▽同準決勝
三春台ク 13—9 セントラル自動車
日本発条 23—17 神奈川教員団

▽同決勝
三春台ク 15（5—5, 10—7）12 日本発条

▽同女子決勝リーグ
神奈川選抜 11—4 大津高OG
大津高OG 8—5 南高OG
神奈川選抜 6—3 南高OG
【順位】①神奈川選抜②大津高OG③南高OG

▽高校男子準々決勝
一商 24—9 法政二
桜丘 17—4 日野
少年工科 10—6 三浦
大和 11—8 多摩

▽同準決勝
一商 11—1 桜丘
大和 10—3 少年工科

▽同3位決定戦
少年工科 9—7 桜丘

▽同決勝
一商 9（4—1, 5—3）4 大和

▽同女子準々決勝
二俣川 8—5 大津
北鎌倉 9—2 市立川崎
江南 17—1 明倫
上溝 4（分）4 平沼
抽せんで上溝高の勝

▽同準決勝
江南 15—6 上溝
北鎌倉 8—5 二俣川

▽同3位決定戦
二俣川 18—4 上溝

▽同決勝
江南 6（3—0, 3—2）2 北鎌倉

富士製鉄、再び首位へ

▼第16回愛知県実業団リーグ（1月・名古屋市体育館）
富士製鉄 34—7 三菱重工
日本碍子 14—11 トヨタ車体
タヨシ産業 22—18 ブラザー工業
大同製鋼 23—14 ブラザー工業
富士製鉄 22—2 トヨタ車体
タヨシ産業 28—16 三菱重工
日本碍子 24—11 ブラザー工業
トヨタ車体 25—22 三菱重工
大同製鋼 12—8 タヨシ産業
富士製鉄 25—6 大同製鋼
日本碍子 26—17 タヨシ産業
ブラザー工業 26—16 三菱重工
富士製鉄 25—10 日本碍子
トヨタ車体 25—7 ブラザー工業
大同製鋼 不戦勝 三菱重工
大同製鋼 22—8 日本碍子
トヨタ車体 25—13 タヨシ産業
富士製鉄 24—9 ブラザー工業
日本碍子 不戦勝 三菱重工
大同製鋼 14—12 トヨタ車体
富士製鉄 24—10 タヨシ産業
【順位】①富士製鉄6戦全勝＝2シーズンぶり9回目の優勝②大同製鋼5勝1敗③日本碍子4勝2敗トヨタ車体⑤タヨシ産業⑥ブラザー工業⑦三菱重工

小禄（女）強味みせる

▼第6回全沖縄高校選手権（1月首里高）

▽男子準々決勝
豊見城 13—6 真和志
郡覇 記録不明 興南
沖縄工 13—10 沖縄
郡覇商 記録不明 糸満

▽同準決勝
郡覇 13—12 豊見城
郡覇高 15—9 沖縄工

▽同決勝
那　覇 12（7―5、5―3）8 那覇商
▽女子準々決勝
小　禄 17―2 浦　添
興　南 8―5 首　里
知　念 記録不明 豊見城
糸　満 記録不明
▽同準決勝
小　禄 11―7 知　念
興　南 10―1 糸　満
▽同決勝
小　禄 11（5―0、6―4）4 興　南

一女、山陽降し初優勝

▼広島県高校室内大会（2月・広島県立体育館）
▽男子準々決勝
広 15―12 修・道
三原工 12―7 呉　商
呉　港 22―15 山　陽
三津田 23―5 呉　工
▽同準決勝
広 21―11 呉　港
三津田 18―17 三原工
▽同決勝
広 14（4―4、10―3）7 三津田
▽女子1回戦（＝2試合）
進　徳 13―3 白　木
豊　栄 8―2 呉　商
▽同準決勝
第一女 9―2 進　徳
山陽女 7―0 豊　栄
▽同決勝
第一女 7（4―1、3―2）3 山陽女

栃木女敗れる大波乱

国学院栃木が男女制は

▼栃木県高校新人大会（2月・国学院栃木高）
▽男子準々決勝
石　橋 10―6 足利工
国学院栃木 15―8 足利商
足利商 15―8 烏　山
宇都宮工 13―9 馬　頭
▽同準決勝
足利商 8―7 石　橋
国学院栃木 25―7 宇都宮工
▽同決勝
国学院栃木 19（10―0、9―3）3 足利商
▽女子予選リーグA組
国学院栃木 20―5 小山城南
国学院栃木 11―9 栃木女
栃木女 23―1 小山城南
▽同B組
足　利 10―4 足利商
足　利 12―4 馬　頭
足利商 5―2 馬　頭
▽同決勝
国学院栃木 19（10―1、9―3）4 足利女

口加と佐世保商勝ち抜く

▼長崎県高校新人リーグ（2月・島原農）
▽男子
長崎工 19―5 西海学園
口　加 11―6 佐世保商
長崎工 14―6 鹿町工
佐世保北 32―2 西海学園
口　加 12―11 鹿町工
口　加 16―3 西海学園
佐世保北 15―5 鹿町工
口　加 11―6 長崎工
鹿町工 不戦勝 西海学園
長崎工 12―7 佐世保北
【順位】①口加4戦全勝＝初優勝②長崎工3勝1敗③佐世保北④鹿町工⑤西海学園
▽女子
島原農 15―2 長崎北
佐世保商 19―2 島原南
島原農 15―0 佐世保北
長崎北 13―4 島原南
佐世保商 16―2 佐世保北
佐世保商 19―4 長崎北
佐世保北 10―1 島原南
佐世保商 9―1 島原農
佐世保北 5―2 長崎北
島原農 不戦勝 島原南
【順位】①佐世保商4戦全勝②島原農3勝1敗③佐世保北④長崎北⑤島原農

高校男子は添上楽勝

▼第21回奈良県選手権（1月・奈良育英高）
▽一般男子1回戦（3試合）
奈良高OB 14―9 東大寺OB
添上OB 20―9 自衛隊
奈　良ク 2―0 斑鳩ク
▽同準決勝
生　駒ク 21―10 奈良高OB
奈　良ク 12―9 添上OB
▽同決勝
奈　良ク 15（7―3、8―4）7 生駒ク
▽高校男子準々決勝
桜井商 14―4 奈良高専
添　上 32―0 奈良育英
生　駒 7―6 東大寺
奈　良 11―7 十津川
▽同準決勝
添　上 16―3 桜井商
生　駒 17―3 奈　良
▽同決勝
添　上 17（9―3、8―6）9 生　駒
▽同女子1回戦（1試合）
奈良育英 6―1 東大寺
▽同準決勝
生　駒 10―0 添　上
十津川 18―1 奈良育英
▽同決勝
十津川 5（4―2、1―1）3 生　駒

中学大会記録

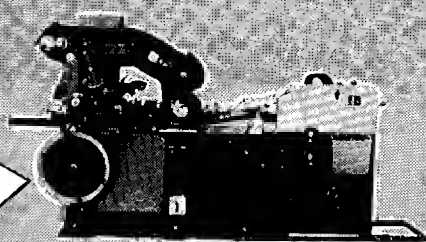
▼奈良県中学選手権（1月）
▽男子準々決勝
東大寺 11―5 斑　鳩
教大附 11―4 平　群
生　駒 4―1 都　南
棒　原 7―2 三　郷
▽同準決勝
東大寺 8―4 教大附
▽同決勝
生　駒 18―4 棒　原
▽同女子準決勝（＝1回戦）
生　駒 7（2―0、5―0）0 東大寺
斑　鳩 10―2 教大附
生　駒 15―2 三　郷
▽同決勝
生　駒 10（5―1、5―0）1 斑　鳩

8月に北陸3県中学大会

北信越協会では45年度の主な日程を次のように決めた。
▽第6回北信越高校（6月下旬、富山県）▽第22回全日本総合北信越予選会（同、長野県）▽第25回国体北信越予選会（8月15、16日石川県）▽第1回北陸3県中学校総合選手権（8月17日、石川県金沢市）

・編・集・後・記・

今年度もいよいよ押しつまり、残すところ一月となりました。世界選手権やはり壁は非常に厚かったようです。しかし、ここでくじけたりしては、どうにもなりません。たたかれても、たたかれても頂点を目指して、ガンバラなければなりません。今こそ、日本のハンドボール界が、世界のトップレベルを目指し、総力をあげる時がきているのです。力を合せ、ガンバリましょう。（TF）





日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第七十三号
昭和四十年六月七[日]第三種郵便物認可
[昭]和四十五年二月二十五日印刷 昭和四十五年三月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
〒 渋谷区神南一ー一ー一 大代表(467)三一一一 振替東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価百五十円（年間購読11回・千二百円）